

平成 29 年 度

(平成 28 年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



平成 29 年 8 月

桶川市教育委員会



あいさつ

教育委員会制度は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正（平成27年4月1日施行）に伴い、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会の連携の強化等が図られました。桶川市においても、「総合教育会議」を設置し、首長と教育委員会が協議を重ね「桶川市教育大綱」を策定してから3年目を迎えます。また、平成29年4月1日付けで新教育長が就任したことに伴い、教育委員長と教育長が一本化され、新教育委員会制度に移行いたしました。

さて、この点検及び評価は9年目となり、旧教育委員会制度において実施した事業の最後の評価となります。昨年度、新たな取組みとして各事業に「目標(値)」を設けましたが、今年度からその目標(値)と実績を比較し評価に反映させております。

教育行政の過渡期にあつて社会情勢も変化する中、教育を取り巻く諸情勢の変化を的確にとらえながら、教育行政の推進を効果的、かつ積極的に進めて参りたいと考えておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成29年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿

(平成29年8月24日現在)

教育長	岩田 泉
教育長職務代理者	水村 実男
委員	青木 健志
委員	小野原 典子
委員	西永 和子
委員	湯浅 哲朗

## 目 次

### I 趣旨、点検及び評価の基本方針

### II 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）

課(館)	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
教育総務課	就学前教育の支援・充実	幼稚園就園奨励事業	6
	学校教育の充実	入学準備金貸付事業	7
		小学校整備事業	8
		中学校整備事業	9
学校支援課 教育総務課	学校教育の充実	I C T教育推進事業	10
学校支援課	学校教育の充実	小・中学校給食業務	11
		補助員配置事業	13
		学校図書館教育補助員配置事業	16
		英語指導助手配置事業	17
		教育相談事業	18
		中学校社会体験チャレンジ事業	21
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	22
		ことばの教室事業	23
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	24
		学校応援団推進事業	25
		教職員の資質・能力の向上推進事業	26
	人権教育・啓発と平和の推進	学校教育における人権教育の推進事業	28
	学校教育の充実	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	29
福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		30	
小・中学校図書購入事業		31	
学校支援課 学務課	学校教育の充実	就学援助事業	32
学務課	学校教育の充実	学校評議員会の設置事業	33
		学校関係者評価委員会の設置事業	34
		教職員の管理業務	35
		教職員の資質・能力の向上推進事業	36

生涯学習 文化財課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	37
		P T A家庭教育講演会	38
		「親の学習」講座	39
	青少年の健全な育成	成人式典	40
		放課後子供教室事業	41
		青少年健全育成事業	42
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	44
		職員出前講座	45
		市民大学の開催	46
		文芸桶川発行	48
		パソコン講習とサポート事業	49
		生涯学習推進体制の整備	50
		学習ボランティア推進事業	52
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	53
	文化・芸術の振興・保存・継承	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業	55
民俗芸能保存事業交付金交付事業		57	
後谷遺跡出土品保存処理事業		58	
指定文化財調査事業		59	
スポーツ 振興課	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業	60
		スポーツ団体への支援事業	61
		スポーツ施設維持管理事業	63
公民館	就学前教育の支援・充実	幼児・家庭教育セミナー事業	64
	生涯学習・生涯スポーツの充実	講座開催事業	65
		公民館業務運営事業	66
図書館	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営経費	67
		図書館業務推進事業	68
歴史民俗 資料館	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	69
	文化・芸術の振興・保存・継承	資料調査・収蔵事業	70
		教育普及事業	71

## 1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

## 2 点検及び評価の基本方針

### (1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会へ報告するとともに市民に広く公表することを目的としています。

### (2) 点検及び評価の対象と方法

桶川市では、新たに平成23年4月より次の10か年を期間とした「桶川市第五次総合振興計画」がスタートし、教育行政の基本方針もこの計画を基に策定していることから、各課（館）で実施している個別事業を点検及び評価の対象とし、評価方法については、個別事業ごとに「桶川市第五次総合振興計画」の「施策の大綱」、「施策」、「基本事業」を選択し、「事業実績」、「実績及び目標（値）に対する評価」、「29年度の目標（値）」「29年度以降の取組み」について点検及び評価を実施しています。

## 3 事業体系

平成28年度に桶川市教育委員会が実施した事業体系は、次頁のとおりです。

※平成28年度「桶川の教育」より

## 平成28年度桶川市教育委員会事業体系

基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

基本目標	施策	事業	P
I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	① 幼児教育の支援	幼稚園就園奨励事業	6
	② 学校教育への支援の充実	入学準備金貸付事業	7
		就学援助事業	32
	③ 学校環境の整備・充実	小学校整備事業	8
		中学校整備事業	9
		I C T教育推進事業	10
		教育指導補助員の配置事業	13
		特別支援指導補助員の配置事業	13
		学校図書館教育補助員の配置事業	16
		小1プロブレム学級支援員の配置事業	13
		日本語指導員の配置事業	13
	④ 学校の組織運営の改善	理科支援員の配置事業	13
		教職員の資質・能力の向上推進事業	36
		教職員の配置事業	35
	⑤ 小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進	学校評議員会・学校関係者評価委員会の推進事業	33 34
		小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育	26
	⑥ 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	学習指導推進事業（県教委委嘱）	26
		学力向上推進事業	26
	⑦ 時代の変化に対応する教育の推進	英語教育推進事業	17 26
		I C T教育推進事業（再掲）	10
⑧ 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	英語教育推進事業（再掲）	17 26	
	社会的な自立を促す進路指導・キャリア教育	22	
	桶川市中学生社会体験チャレンジ事業	21	
⑨ 共生社会を支える特別支援教育の推進	進路意識啓発事業	22	
	教育相談事業（ことばの教室）	23	
	発達障害・情緒障害通級指導教室事業	24	

		小学校外国語活動ステップアップ研修会	26
		様々な人権課題について理解を深める 人権教育研修会	26 28
		生徒指導・教育相談中級研修会	26
	⑩ 教職員の資質能力の向上	社会的な自立を促す進路指導・キャリア教育研修会	26
		学校課題研究推進事業	26
		臨時的任用教職員研修会	36
		人事評価者研修会	36
II 豊かな心の育成と人権意識の高揚	① 「桶川市人権教育基本方針」の具現化	人権教育の推進	53
	② 社会教育における人権教育の推進	桶川市人権教育推進協議会	53
		研修会、講演会の開催	53
		桶川市立集会所事業	53
	③ 学校教育における人権教育の推進	人権作文「かがやき」発行事業	28
		様々な人権課題について理解を深める 人権教育研修会（再掲）	28 28
	④ 豊かな心を育む教育の推進	セカンドブック事業	68
		豊かな人間性を育む道徳教育研修会	26
	⑤ 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の充実	生徒指導体制の充実	26
		生徒指導・教育相談中級研修会（再掲）	26
	⑥ いじめ・不登校の未然防止の推進	教育相談事業（教育センター）	18
		適応指導事業（教育センター）	18
		さわやか相談員の配置事業	18
		スクールカウンセラーの配置事業	18
いじめ防止対策推進事業		18	
III 健やかな体（からだ）の育成	① 体力向上を目指した学校体育の充実	体力向上推進委員会の設置	26
	② 食育の推進を通じた健康教育の充実	学校給食事業	11
		学校保健推進事業	26
	③ 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進	安全教育・安全管理の推進	25
	④ 各種スポーツ団体への支援	各スポーツ団体に対する助成金の交付	61
⑤ スポーツ・レクリエーション活動の普及	各種大会及び教室等の開催	61	

		各種スポーツ団体、スポーツクラブによる活動の支援	61
		学校体育施設の開放	63
IV 家庭・地域の教育力の向上	① 家庭教育の支援	「親の学習」講座	39
		PTA への支援	37 38
	② 青少年健全育成の推進	青少年問題協議会	42
		青少年健全育成市民会議	42
		青少年育成団体への支援	42
	③ 地域・学校と連携した教育環境の整備	放課後子供教室	41
		子ども大学あげお・いな・おけがわ	46
	④ 幼児・家庭教育セミナーの開催	幼児・家庭教育セミナー	64
	⑤ 学校応援団の充実	学校応援団推進事業	25
	V 生涯にわたる学びとスポーツの支援	① 学習情報の提供と学習相談体制の充実	生涯学習情報の提供
児童・生徒向けの学習情報紙の発行			44
パソコンサポートセンターの開設			49
② 学習機会の整備・推進		社会教育施設・生涯学習施設の充実	53
		職員出前講座	45
		文芸桶川の発行	48
③ ライフステージに応じた市民との協働による学習の推進		平成市民大学	46
		ボランティア団体との協働によるパソコン講習	49
		桶川市み・ら・い塾（人財バンク事業）	52
		成人式典	40
④ ボランティアの育成と連携		図書館奉仕活動におけるボランティアとの協働事業の推進	52
⑤ 生涯学習推進体制の整備		社会教育委員会議	50
		桶川市生涯学習推進会議	50
		社会教育団体活動の助成	50
		社会教育指導員の設置	50
		社会教育関係委員合同研修会	50
⑥ スポーツ推進委員の育成		スポーツ推進委員に対する研修及び講習	60
⑦ スポーツ・レクリエーション指導者の育成		生涯スポーツ指導者の育成	60
⑧ スポーツ・レクリエーション施設の整備		スポーツ・レクリエーション施設の充実	63
⑨ 多様な学習や活動の機会の充	講座開催	65	

	実	加納公民館エレベーターの設置	66
	⑩ 図書館サービスの充実	図書館資料の充実	68
		図書館奉仕の充実	67
	⑪ 読書会等の活動の支援・育成	読書会等の活動支援	68
	⑫ 歴史民俗資料館事業の充実	教育普及事業	71
		資料調査事業	70
VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	① 文化財保護事業の推進	文化財保護審議会及び文化財調査	59
		市内遺跡発掘調査	59
		埋蔵文化財発掘調査	59
		民俗芸能に関する伝承状況の調査	57
	② 文化財保存事業の推進	原山古墳群史跡整備	59
		後谷遺跡出土品保存修理	58
		指定文化財保存管理交付金・民俗芸能保存事業交付金	55 57
		収蔵管理事業	71
		記録保存事業	71
	③ 郷土文化伝承活動の推進	体験学習活動	71
		紅花関連事業	71
	④ 学博連携事業の推進	学校・博物館連携事業	71
		社会科学習への支援	71

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	幼稚園就園奨励費の拡充（2013）		
事業名	幼稚園就園奨励事業		
予算額	92,191,000円	決算額	90,490,500円

**1 事業概要**

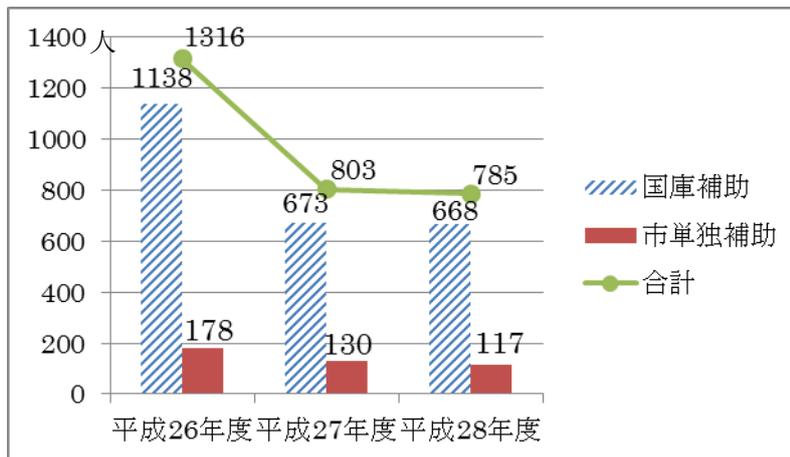
国費による就園奨励費補助事業に加え、市費による補助事業も併せて行うことにより、幼児教育における園児保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的とする。

**2 事業実績**

(1) 幼稚園就園奨励費補助金

国庫補助対象分として668人、89,511,600円、市単独補助分として117人、809,100円を補助した。

＜過去3年間の補助対象者数の推移＞



平成27年4月1日より施行の「子ども・子育て支援新制度」により、桶川市内3園及び市外の幼稚園が認定こども園又は施設型給付費の支給を受ける幼稚園へ移行したため、平成27年度においては、対象人数及び事業費が大幅な減少となった。

(2) 私立幼稚園事務費助成金

幼稚園就園奨励費補助金の事務に対する補助として、市内4園に対し、総額169,800円を交付した。

**3 上記2に対する評価**

幼稚園教育を希望する保護者に対して必要な措置を行うことができた。

**4 29年度の目標(値)**

引続き、制度の理解や周知を図る。

**5 29年度以降の取組**

子育て世代の保護者負担を軽減し、就園率を高めるために有効であることから29年度以降も引き続き支援を行っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	4,800,000円	決算額	2,200,000円

**1 事業概要**

経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、大学、専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行う。

**2 事業実績**

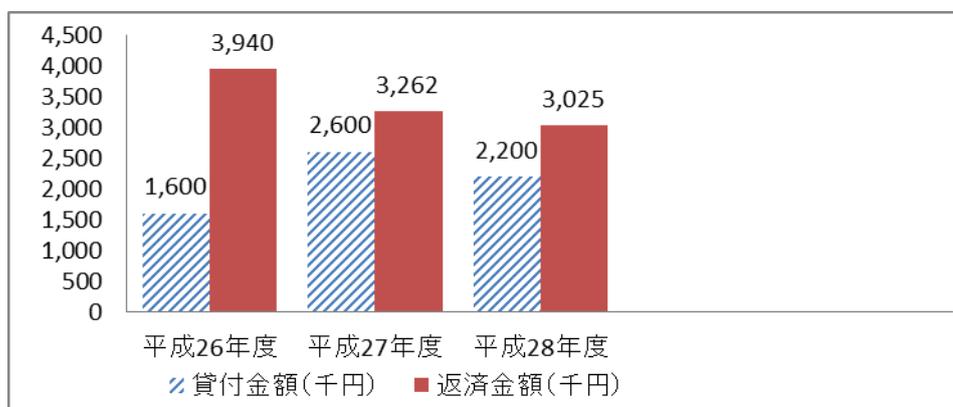
(1) 貸付状況

平成28年度の貸付申込者は11人であった。申請後1人、貸付決定後2人が辞退し8人については審査の上、貸付を行った。

＜過去3年間の貸付の推移＞

年度	貸付金額	件数	内 訳
26	1,600,000	5	高校 2、専門学校 0、大学 3
27	2,600,000	9	高校 5、専門学校 0、大学 4
28	2,200,000	8	高校 5、専門学校 0、大学 3

(2) 貸付総額に対する返済の状況



**3 上記2に対する評価**

- (1) 平成28年度から2月中旬までであった貸付申請締切りを2月末日まで延長し、必要な方に必要な支援を行うことができた。
- (2) 償還困難となっている案件については、訪宅や電話連絡等により数人が返済再開となり、滞納分を減らすことができた。

**4 29年度の目標(値)**

引続き、制度の理解や周知を図る。返済が再開された方について、返済が滞らないよう対応する。

**5 29年度以降の取組**

- (1) 昨年度に引続き、貸付申請の締切りを2月末日までとし、必要な支援を行う。
- (2) 償還困難となっている案件についても、引続き訪宅や電話連絡等を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	313,136,000 円	決算額 (繰越明許費)	73,327,533 円 (237,000,000 円)

**1 事業概要**

学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備する。

**2 事業実績**

(1) 工事について (主な工事) (単位：円)

工事名	決算額
西小学校高圧気中負荷開閉器改修工事	1,144,691
東小学校防災設備交換工事	1,368,036
日出谷小・加納小学校揚水ポンプ交換工事	3,488,400
桶川小学校プール改修工事	2,332,800
桶川小学校校庭整備工事	38,880,000
川田谷小学校プールろ過機改修工事	4,266,000
※契約額：6,966,000 円（前払金 2,700,000 円は 27 年度支出済）	

<繰越事業>

- ・加納小学校老朽化対策工事 230,000,000 円（予算額）

(2) 委託について

- ・加納小学校老朽化対策設計変更委託 2,225,880 円
- ・桶川市学校施設老朽化対策基本計画策定委託 6,597,818 円
- ・桶川小学校校庭整備工事設計委託 4,536,000 円

<繰越事業>

- ・加納小学校老朽化対策工事監理委託 7,000,000 円（予算額）

**3 上記2に対する評価**

- (1) 緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適切に工事を進めることができた。
- (2) 「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」を策定することができた。
- (3) 桶川小学校校庭の排水設備を整備することができた。

**4 29年度の目標(値)**

「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、加納小学校のトイレ等改修工事を行うとともに、30年度に実施する桶小・西小・川田谷小学校の実設計を行う。

**5 29年度以降の取組**

学校施設の老朽化対策として、「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、まずは4年間でトイレ等改修を行う。その後は長寿命化を図るための大規模改修を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	253,109,000 円	決算額 (繰越明許費)	23,933,027 円 (229,000,000 円)
<b>1 事業概要</b>			
学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備する。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 工事について (主な工事) (単位：円)			
工事名		決算額	
加納中学校高圧気中負荷開閉器改修工事		1,317,709	
東中学校プール槽塗装補修工事		1,296,216	
桶川中学校西側フェンス改修工事		999,432	
西中学校バレーコートフェンス設置工事		551,880	
防火シャッター改修工事（4校）		8,100,000	
<繰越事業>			
・東中学校老朽化対策工事		223,000,000 円（予算額）	
(2) 委託について			
・東中学校老朽化対策設計変更委託		1,974,240 円	
・桶川市学校施設老朽化対策基本計画策定委託		3,770,182 円	
<繰越事業>			
・東中学校老朽化対策工事監理委託		6,000,000 円（予算額）	
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 緊急性や中学校の要望等を踏まえ、適切に工事を進めることができた。			
(2) 「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」を策定することができた。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、東中学校のトイレ等改修工事を行うとともに、30年度に実施する西中学校の実設計計を行う。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
学校施設の老朽化対策として、「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、まずは4年間でトイレ等改修を行う。その後は長寿命化を図るための大規模改修を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ICT教育推進事業		
予算額	16,138,000円	決算額	15,699,285円
<b>1 事業概要</b>			
学校におけるICTの活用を推進するため、指導方法の工夫や校務の電子化を図るとともに、タブレットPCの段階的導入、校務用PCの更新など諸条件の整備を行う。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) ICT教育コンテンツの活用（1,683,504円【学校支援課】） 各校において情報教育の全体計画を策定し、ICT教育コンテンツを活用した教育活動を実践した。			
(2) タブレットPCの整備 （3,388,581円【教育総務課】） 児童生徒用のタブレットPCを、新たに2小学校に導入した。（桶川小・朝日小 各10台）			
	H26	H27	H28
タブレットPC	日小・加小	東中	桶小・朝小
参考(iPad)		各校11台	
(3) 校務用PCの入れ替え（小学校6,801,408円 中学校3,825,792円【教育総務課】） 小・中学校校務用PCを全台入れ替え、校務支援システムにより、校内の職員間だけでなく、市内小・中学校間で職員同士の連絡ができるようにした。			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 電子黒板・タブレットPC等の積極的な活用により、児童生徒の興味・関心を高めることはもちろん、電子黒板やプロジェクターで個々の考えを全体で共有したり、タブレットPCで撮影した画像や動画を囲んで小グループで学び合う姿が見られたり、主体的で深い学びにつながるツールとしての活用が図れた。			
(2) タブレットPCが整備され、活用場面が増えた。相互通信できる環境が限られており、また、インターネット環境で使用できないため、使用場面が限定されている。活用しやすい環境整備を進めるとともに、現在の環境での効果的な活用について研究していく必要がある。			
(3) 校務支援システムにより、校務のICT化が進んだことで、授業でのICT活用に対する抵抗感も減少し、活用状況が改善されてきた。より効果的なICTの活用方法について、研修会を実施するなどして情報共有を図り、研究する必要がある。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
(1) 児童生徒用のタブレットPCを新たに2小学校・2中学校に導入し、これまで導入した学校も含めて効果的に活用できる環境を整備する。			
(2) 電子黒板等の既存のICT機器を含めた積極的な活用を推進する。			
(3) ICT活用についての研修会を実施する。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
(1) 次期学習指導要領を見据えたICT機器の活用法について研究し、より効果的な教育用コンテンツの導入を図る。			
(2) ICTを活用した授業の実践について、各校の取組について情報を共有し、より効果的な活用を推進する。また、ICTの活用に関する教員の研修の充実を図り、教員のICT活用能力の向上を図る。			
(3) 平成29年度は、西小、川田谷小、桶川中、加納中に、平成30年度は、西中にタブレットPCを導入予定であり、平成30年度までに市内全ての小・中学校への導入を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	214,165,000円	決算額	213,467,837円

**1 事業概要**

- (1) 桶川市学校給食運営事業  
学校給食の実施計画、給食用物資選定及び献立作成等については、桶川市学校給食運営委員会で検討した。
- (2) 学校給食調理業務  
各小・中学校の学校給食は自校方式で行っている。調理業務については、(公財)桶川市施設管理公社に委託した。
- (3) 学校給食の放射線量測定  
学校給食用食材の放射線量の測定を、市内小中学校11校全校において順番に実施した。
- (4) 学校給食用残牛乳処分委託  
学校給食用牛乳の残処分について回収業者へ処理を委託した。
- (5) 食育の推進  
栄養教諭等を中心とした食育指導の充実を図る取組を行った。

**2 事業実績**

- (1) 桶川市学校給食運営事業
- ア 給食費  
小学校：月4,000円（1食234円） 実施回数 年間190回  
中学校：月4,550円（1食272円） 実施回数 年間185回
- イ 献立作成  
桶川市学校給食運営委員会専門部会において、栄養教諭・学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月3回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。
- ウ 桶川市学校給食運営委員会  
学校給食運営上の課題（諸会議の運営方法、給食物資選定の方法、給食残渣等）について、改善に向けた協議を行い、平成29年度取組計画を策定した。
- (2) 学校給食調理業務
- ア 学校給食調理業務委託（196,205,335円）  
給食物資の調達・発注、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄、給食室内の衛生管理等について、(公財)桶川市施設管理公社に委託した。
- イ 調理作業機器等の更新（6,354,319円）  
調理機器（ガス回転釜）[朝日小] 冷却機器（冷蔵庫）[桶川小]  
加熱機器（消毒保管機）[加納中・桶川東小]  
その他の給食関連機器（三層シンク等）[桶川西小]
- ウ 給食室備品の点検・保守（2,853,576円）  
検査委託、グリストラップ、設備保守、設備洗浄、消毒等
- (3) 学校給食の放射線量測定（1,011,326円）
- ア 給食用食材の測定  
消費者庁の放射線測定機器第4次配備計画による測定機器の貸与があり、4月から翌年3月まで3品目を週4回（H28.8～は週3回）1校ずつローテーション

で放射線量の測定を実施した。

(4) 学校給食用残牛乳の処分委託 (1,704,024円)

毎週末に、残牛乳を委託処理業者が回収した。(平成28年度処分量7,420kg)

(5) 食育の推進

ア 桶川東小・朝日小の2校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として食育の推進事業を行った。

イ 桶川中において、食育指導力授業研究協議会を開催し、栄養教諭等が学級担任と連携した食育に関する授業研究会を実施した。

### 3 上記2に対する評価

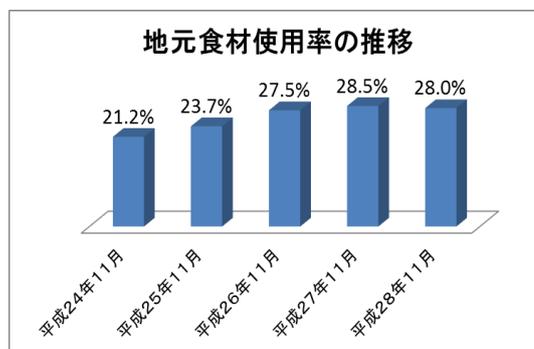
(1) 桶川市学校給食運営事業

ア 献立作成

地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力をし、地元産食材の割合は小中平均で28.0% (平成28年11月現在)であった。

イ 学校給食運営委員会

年4回の学校給食運営委員会を開催し、食物アレルギー対応マニュアルの策定や規約の改正等を検討ができた。



(2) 学校給食調理業務

ア 学校給食調理業務委託

(ア) (公財)桶川市施設管理公社との調整を経て、安心・安全な食材を用いて、安定した給食供給を行うことができた。

(イ) 支払業務など事務処理についても、学校事務員及び(公財)桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

イ 調理作業機器等の更新

老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。

(3) 学校給食の放射線量測定

計画どおり適切に測定し、測定値をホームページで公表することによって、保護者に対して、安心・安全な学校給食の実施を伝えることができた。

(4) 学校給食用残牛乳の処分委託

県通知『学校給食用牛乳容器等の処理について』の廃止に基づき、学校給食用残牛乳の処分を委託により適正に行うことができた。

(5) 食育の推進

食育の指導において、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員とのティーム・ティーチングによる授業を、学校の年間指導計画に位置づけ、計画的に行うことができた。

### 4 29年度の目標(値)

(1) 地元産食材の割合を小・中学校平均で30%にする。桶川産食材の特産品を中心に積極的に使用する。(紅花や梨)

### 5 29年度以降の取組

(1) 学校給食運営員会で、学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。

(2) 献立検討部会で栄養教諭・栄養職員へ安心・安全な食材の確保及び地産地消の推進を図る。

(3) 給食費未納者への対応については、各校の状況を適宜把握するとともに、必要に応じて関係部署と連携を密にして未納の解消に努める。

(4) 栄養教諭等を活用して、食育の授業の充実と質の向上を目指す。

(5) 学校における各マニュアルについて、計画的に点検・見直しを行っていく。

(6) 消費税等の今後の動向を注視し、給食費への影響について検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	補助員配置事業		
予算額	55,274,000円	決算額	54,262,700円

1 事業概要

児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。

2 事業実績

	学校名	教育指導補助員	特別支援指導補助員	日本語指導員	小1プロブレム支援員	(理科支援員)
1	桶小	2	5	1	1	1
2	加小	2	2	1	1	1
3	川小	2	2		1	1
4	西小	2	4	1	1	1
5	東小	2	2	1	1	1
6	日小	2	2		1	1
7	朝小	2	2		1	1
8	桶中	2	1			
9	東中	2	1	1		
10	西中	2	1	1		
11	加中	2	1	1		

(1) 教育指導補助員配置事業 (22,131,120円)

通常の学級に在籍する児童生徒について学習指導補助等を行った。小学校低・中学年ではおもに国語、算数、体育等の学習指導補助、高学年では音楽におけるピアノ伴奏、理科、算数における学力向上に向けた学習指導補助等を行った。中学校では数学を中心とした学習指導補助の他、保健体育、美術など技能教科、理科の学習指導補助を行った。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

(2) 特別支援指導補助員配置事業 (23,186,570円)

特別に配慮を要する児童生徒について、技能教科等での補助的支援や個別の声かけ、日常生活への適応について支援を行った。特別支援学級や通級指導教室の設置の状況により、補助員の配置を調整した。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

(3) 日本語指導員配置事業 (937,280円)

日本語の指導を要する児童生徒が在籍する小学校4校、中学校3校に、4人の補助員を配置した。日本語指導員は、通常の学級に在籍する外国籍の児童生徒に対する支援として、日本語指導及び教育指導の補助にあたった。

配置状況：（原則として週2日、1日4時間）

小学校4校（桶川小26日、加納小45日、桶川西小21日、桶川東小54日）  
スペイン語、中国語、タガログ語

中学校3校（桶川東中6日、桶川西中24日、加納中56日）  
スペイン語、中国語

(4) 小学校理科支援員配置事業 (864,000円)

小学校理科の授業における学習指導補助（実験・観察の準備や片付け、学習の支援等）を行うため、小学校理科支援員を各小学校に1人配置した。

配置状況 1、2学期

日出谷小：60日

- 桶川小・加納小・川田谷小・桶川西小・桶川東小・朝日小：30日
- (5) 小1プロブレム対策推進事業 (7,143,730円)  
 小学校低学年(原則1年生)において学習指導補助や生活支援及び学級支援を行った。  
 配置状況：年間185日(原則として週5日、1日5.5時間)
- (6) 補助員及び支援員の資質向上を図るため、研修会を実施した。  
 平成28年10月20日 「子どもの心を見る視点」  
 指導者 東京未来大学 こども心理学部 准教授 須田 誠 氏

### 3 上記2に対する評価

- (1) 教育指導補助員配置事業  
 ア 担任や教科担当と連携しながら一人一人の理解の程度に応じたきめ細かな指導を行うことができた。  
 イ 学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成につながり、同時に基礎的・基本的な力を身に付けることにつながることができた。  
 ウ 多様化する個別の支援を必要とする児童生徒に対応するため、補助員の増員と質の確保が課題である。
- (2) 特別支援指導補助員配置事業  
 ア 特別な教育的支援を要する児童生徒にきめ細かで適切な支援を行うことができた。  
 イ より多くの支援を必要とする児童生徒がいるため、状況に応じて丁寧な支援を行うためにも、補助員の増員と人員の確保が課題である。
- (3) 日本語指導員配置事業  
 ア 日本語指導員が授業中の学習支援や個別の学習指導を行うことで、支援・指導を受けた外国人児童生徒は、ひらがなやカタカナを習得することができ、日本語による学習に慣れることができた。  
 イ 日常生活で他の児童生徒とのコミュニケーションをすることができ、安心して学校生活を送ることができるようになった。
- (4) 小学校理科支援員配置事業  
 ア 小学校理科の授業における観察・実験の支援や観察・実験の準備、後片付けを行うことで、理科教育の充実を図ることができた。また、指導主事による巡回指導時において児童への具体的な接し方や器具の準備や片付け方法やそのタイミング等について指導し、授業が充実するような支援をすることができるようになった。勤務日数を40日から60日に増やし、1学期(6/1～)の配置を可能にした。これにより、一層充実した理科教育の実践に繋げることができた。
- (5) 小1プロブレム対策推進事業  
 ア 第1学年担任と連携し、1年生児童の学校生活に適應するための支援をすることができた。また、教育活動における生活指導・安全指導・教科指導等の支援を行うことにより、一人一人の理解の程度に応じた細やかな指導を行うことができた。  
 イ 基本的な学力(読み 書き 計算)の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。  
 ウ 教育的ニーズに応じた個別の支援を必要とする児童もおり、丁寧に対応するためにより多くの支援員を配置すること及び人員の確保が課題である。
- (6) 補助員及び支援員の研修会を実施し、具体的な指導方法等について学び、補助員及び支援員の資質向上を図ることができた。

### 4 29年度の目標(値)

補助員及び指導員の資質向上を図るため、研修会を実施するとともに、教育に関する情報提供を行う。

### 5 29年度以降の取組

- (1) 教育指導補助員配置事業  
 学力向上を一層充実させるため、児童生徒の実態に応じて補助員の人材確保に努める。
- (2) 特別支援指導補助員配置事業

特別に配慮を要する児童生徒への適切な教育的支援が行えるよう特別支援指導補助員の人材確保と増員、複数年配置すること等を検討する。

(3) 日本語指導員配置事業

外国籍の児童生徒の状況を把握し、必要なタイミングで必要な指導が行えるよう、指導員を配置していく。

(4) 小学校理科支援員配置事業

理科教育の充実を図るため、本事業の効果の検証を行い、継続・増員・配置日数増を図る。

(5) 小1プロブレム学級支援員配置事業

小1児童の学校生活の充実を図るため、継続・増員を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員配置事業		
予算額	5,610,000円	決算額	5,610,000円
<b>1 事業概要</b>			
小・中学校に学校図書館教育補助員を配置し、学校図書館教育、読書指導の充実を図った。			
<b>2 事業実績</b>			
小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。（5,610,000円）			
配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5時間勤務）			
(1) 児童生徒への読書指導			
ア 学級担任や教科担当との連携により、総合的な学習の時間や国語科等における学習の補助を行った。			
イ 学校応援団の図書ボランティアと連携して、始業前や昼休みの時間を活用して、読み聞かせ活動を行った。			
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助			
(3) 学校図書館の環境整備			
ア 司書教諭と連携して、図書の効果的な配置、季節感のある掲示及び本の紹介を行い、学校図書館の環境整備に取り組んだ。			
イ 市立図書館から図書の団体貸出を利用し、校内の教育活動に活用した。			
平成28年度利用状況：市内6校 18回 計235冊			
ウ 補助員対象の研修会を実施した。			
実施日：平成28年10月17日(月) 内容：市立各図書館と学校図書館の連携			
平成29年2月10日(金) 内容：本の修繕の方法について			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 児童生徒への読書指導			
ア 学校図書館を活用した学習活動の幅が広がり、各教科の調べ学習や探究的学習を進めるにあたり図書の準備や、児童生徒へのサポートをすることで学習活動に貢献した。			
イ 読み聞かせ活動において推進的な役割を担い、児童の読書習慣を定着させた。			
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助			
ア 学校応援団の図書ボランティアとの連携において中心的な役割を担い、蔵書の修復や整理等を計画的に行い、学校図書館の環境の向上が図られた。			
イ 学校図書館補助員が図書館にいて貸し出しを円滑に行うことができた。			
(3) 学校図書館の環境の整備			
ア 蔵書の数を充実させながら、掲示物を工夫するなど室内を整備することによって、児童生徒が利用したくなるような学校図書館環境を整えることができた。			
イ 市立図書館との連携役を担い、校内において調べ学習をはじめ、多様な資料となりうる図書の提供ができた。			
ウ 補助員対象の研修会を通して、学校図書館の一層の充実及び市立図書館との連携の在り方について研修し、資質の向上を図ることができた。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
研修会において、各学校における学校図書館教育の取組について情報交換を行い、学校図書館の機能の向上を図る。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
学校図書館の機能の一層の充実のため、学校図書館教育補助員が必要としている研修内容を取り入れた研修会を実施して、学校図書館教育補助員の資質向上を図る。また、セカンドブック事業の推進に向け、積極的な活用を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業		
予算額	18,700,000円	決算額	18,468,000円
<b>1 事業概要</b>			
<p>小学校に3人、中学校に2人の英語指導助手を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 配置状況			
<p>A指導助手：桶川小学校 123日      日出谷小学校 86日          B指導助手：加納小学校 67日      川田谷小学校 63日      朝日小学校 80日          C指導助手：桶川西小学校 97日      桶川東小学校 110日          D指導助手：桶川東中学校 91日      桶川西中学校 93日          E指導助手：桶川中学校 110日      加納中学校 79日</p>			
(2) 活動状況			
<p>ア 外国語活動や外国語、総合的な学習の時間等での指導補助のほか、給食、清掃活動等の時間を通して児童生徒と交流し、外国語や外国の文化に触れる機会を設定した。</p> <p>イ 各小学校において、夏季休業中に外国語活動の指導についての研修を行った。</p> <p>ウ 中学校では、英語暗唱・弁論大会の指導等を行った。</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 児童生徒の発達段階に応じた活動を取り入れることにより、英語に関する興味関心やコミュニケーションの意欲を高めることができた。また、授業時間だけでなく休み時間や給食、清掃時間など様々な場面で児童生徒とALTが交流することにより、外国語や外国の文化に触れる機会を増やすことができた。</p> <p>(2) 各小学校で行った夏季休業中の外国語活動についての研修会では、授業にすぐに生かせるヒントを掴むことができた。教員の評価は、4段階評価で3.46であった。</p> <p>(3) 桶川・伊奈地区中学校英語暗唱・弁論大会においては、英語指導助手の指導を受けることで、より質の高い暗唱及び弁論を行うことができた。暗唱の部では1位、弁論の部では2位～5位と高い成果を上げることができた。</p>			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
<p>各小・中学校に英語指導に係る指導助手を配置し、生きた英語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、英語によるコミュニケーション能力の向上等英語教育の推進を図る。</p>			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
<p>(1) 外国語活動・外国語の授業を一層効果的に推進するため、授業等の状況を把握し、派遣業者と連携して、英語教育に係る指導助手の資質向上に努める。</p> <p>(2) 各学校における学習指導等を工夫し、英語教育に係る指導助手の活用の改善を図る。</p> <p>(3) 次期学習指導要領に向けた教育課程の編成を計画的に行っていく。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教育相談事業		
予算額	15,801,000円	決算額	15,768,360円

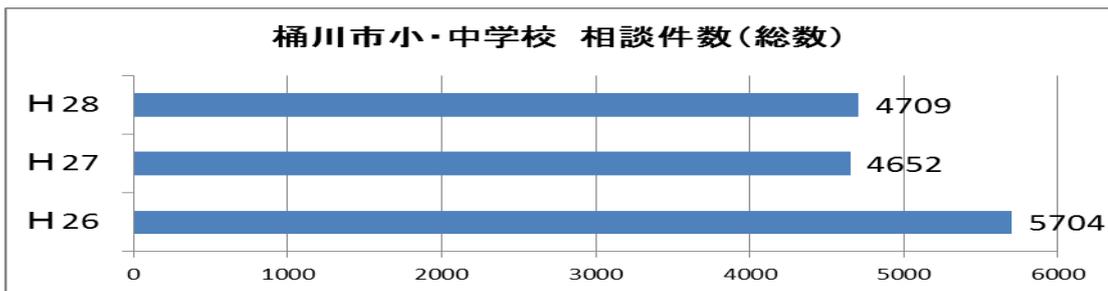
1 事業概要

- (1) さわやか相談員を各中学校に配置した。
- (2) 桶川市教育センターにカウンセラー及び相談員を各2名配置し、教育相談を行った。  
また、指導員4名を配置し、適応指導教室「けやき教室」を運営した。
- (3) スクールカウンセラーを各中学校に配置した。3校については隔週で1日、1校については週に1日配置した。
- (4) 平成28年8月より、いじめ専用ダイヤルを設置した。
- (5) 学校支援課にスクールソーシャルワーカーを1名配置した。

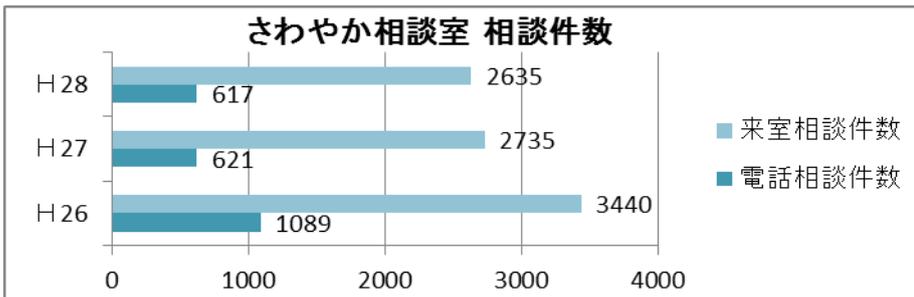
2 事業実績

(1) 桶川市小・中学校 相談件数（総数）

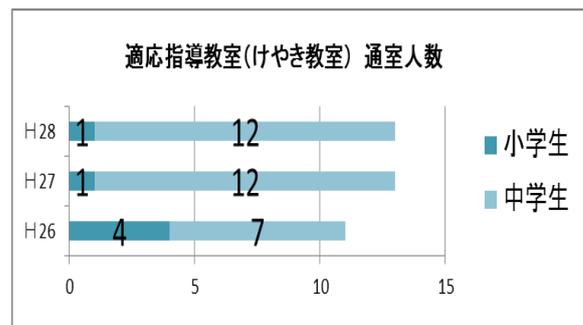
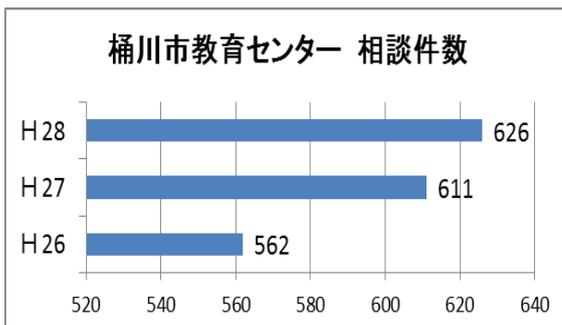
さわやか相談室、桶川市教育センター、スクールカウンセラーへの相談件数をすべて合計したもの。



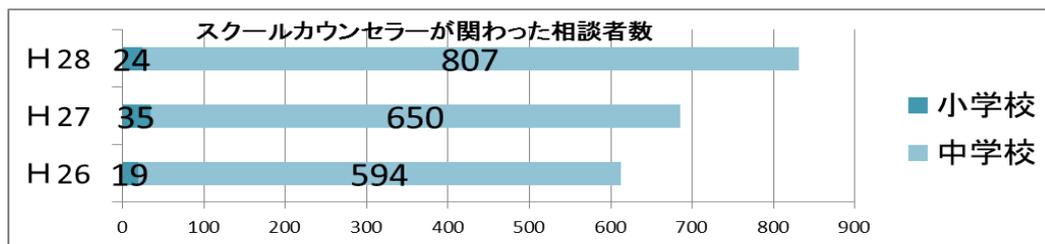
(2) さわやか相談員（9,310,599円）



(3) 桶川市教育センター（適応指導教室「けやき教室」を含む）（8,533,352円）



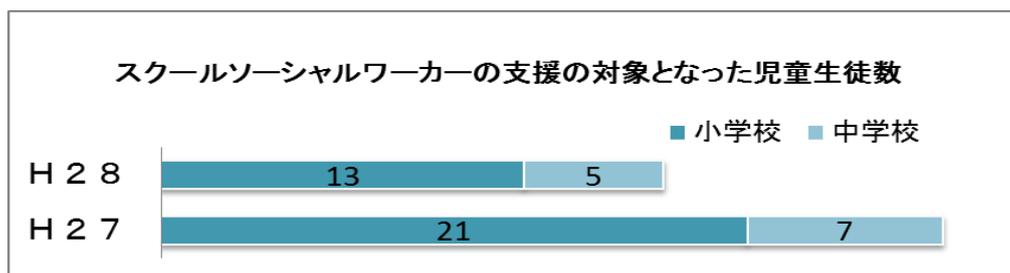
(4) スクールカウンセラーが関わった相談者数（述べ人数）



〔関連事項、市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校児童生徒数〕				
いじめの認知件数	小学校	33件	中学校	19件
不登校児童生徒数	小学校	20人	中学校	66人

(5) いじめ専用ダイヤルについては、いじめ相談の案件はなかった。

(6) スクールソーシャルワーカーの支援の対象となった児童生徒数



### 3 上記2に対する評価

(1) さわやか相談員

ア 児童生徒及び保護者の相談を受け、学級担任や養護教諭等と連携を迅速に図ること  
とで、いじめや不登校への適切な対応を行うことができた。

イ 相談件数減少の要因の一つとして、相談内容によっては、さわやか相談員が直接相  
談にあたるのではなく、より専門的なスクールカウンセラーに相談をつなぎ役となっ  
たケースもあった。

(2) 桶川市教育センター（適応指導教室を含む）

ア 児童生徒の行動や発達等の課題に関する保護者からの相談に対して、カウンセラー  
及び相談員が面談や電話相談により、きめ細やかに対応することができた。

イ 不登校児童生徒に対して、指導員が学校への復帰のための支援を適切に行えた。ま  
た、適応指導教室に通う中学生の学習等に対応するため、退職中学校教員を指導員と  
して任用した。今後、児童生徒のニーズに応えるため、指導員の勤務日数を増やす必  
要がある。

(3) スクールカウンセラー

ア 不登校や発達障害が疑われる等、特別な教育的配慮を要する児童生徒に対して専門  
的な検査等を実施し、適切な指導・支援の在り方を保護者及び教員に助言し、課題の  
解決に向けて成果をあげた。

イ スクールカウンセラーが関わった小学校の相談件数は横ばいである。身近な場所に  
配置されていないことが要因と考えられる。

(4) いじめ専用ダイヤル

ア いじめの案件はなかったが、いじめ専用ダイヤルについて児童生徒及び保護者への  
周知が必要である。あわせて、県教育委員会や文科省の相談事業の周知も図っていく。

(5) スクールソーシャルワーカー

ア 学校と連携を密に図り、関係機関等とのネットワークを活用しながら、問題を抱える児童生徒及び保護者に支援を行うことができた。

**4 29年度の目標(値)**

児童生徒・保護者の教育相談にていねいに対応し、一人一人の状況に応じた適切かつスムーズな指導・支援を行う。

**5 29年度以降の取組**

- (1) 各相談機関の機能を最大限に活用、運用して、より一層の教育相談の充実を図る。
- (2) いじめ撲滅、不登校児童生徒の減少を目指して、小・中学校と各相談機関の効果的な連携を推進する。
- (3) 児童や保護者が身近な場所で、相談しやすい環境をつくるため、小学校のさわやか相談員配置を検討していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる				
施 策	学校教育の充実（202）				
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）				
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業				
予算額	247,000円	決算額	247,000円		
<b>1 事業概要</b>					
生徒が将来をよりよく生きるために、望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるなど、進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。					
<b>2 事業実績</b>					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 実施日 第1回：平成28年5月17日（火） 第2回：平成29年2月 8日（水）					
イ 委 員 桶川市商工会、桶川青年会議所、桶川ロータリークラブの代表者 桶川市PTA連合会長、代表校長、各校事業担当者					
ウ 内 容 職場体験活動の目的の確認、依頼する事業所の確認、各校の情報交換					
(2) 各校における実績					
ア 体験期間：3日間、参加生徒数：651人					
イ 協力事業所数：延べ181事業所					
	学 校 名	実施学年	人数(人)	事業所数	交付金(円)
	桶 川 中	第1学年	191	47	67,000
	桶川東中	第2学年	159	48	62,000
	桶川西中	第2学年	181	50	67,000
	加 納 中	第2学年	120	36	51,000
<b>3 上記2に対する評価</b>					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 市内中学校4校で情報交換を行うことで、よりよい事業の運営ができた。					
イ 桶川市商工会、桶川市青年会議所、桶川ロータリークラブ、PTA連合会長の参加により事業所への依頼を円滑に行うことができた。					
(2) 各校の取組					
ア 事業所に赴き、実際に働くことや働く方々と接することにより、普段学べないことを掴むことができた。また、その後の学習もより深いものになった。					
イ 3日間の職場体験を軸に、事前学習、事後学習を含め、充実したキャリア教育を行うことができた。					
<b>4 29年度の目標(値)</b>					
(1) 地域での社会体験や勤労体験を通して、望ましい職業観・勤労観や社会性・自立心を養い、豊かに生きる力をはぐくむ。					
(2) 活動を通じて本市中学生の様子を地域に理解していただくとともに、地域と学校との連携を深める。					
<b>5 29年度以降の取組</b>					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会で交換された意見や情報を、さらなる事業の充実に役立てていく。					
(2) 年2回の事業推進委員会において、桶川市商工会、桶川市青年会議所等との連携を深め、市内及び近隣市の事業所に対して本事業への理解の促進をお願いし、新規受入れ事業所を確保する。					

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）		
予 算 額	40,000 円	決 算 額	40,000 円

**1 事業概要**

進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。

**2 事業実績**

各中学校の実施内容

学 校 名	講 師	参加人数	実施日	内 容（講演・演題）
桶 川 中	中学校教諭	608 人	10 月 7 日	「いつかは入れよう、やる気スイッチ」
桶川東中	料理人	540 人	9 月 7 日	「夢を叶える」
桶川西中	声楽家	580 人	10 月 25 日	「オペラとの出会い」
加 納 中	元女子プロ野球選手	360 人	10 月 6 日	「夢・実現」

**3 上記2に対する評価**

- (1) 学校や地域に関わる職業人から直接話を聞くことで、働くということについてあらためて考える機会を持つことができた。さらに、自分自身の進路を見つめるきっかけとすることができた。講師それぞれの仕事の内容のみならず、夢を実現するために努力することの大切さ、仕事に対する信念、仕事に向き合う真摯さなどを生徒達が感じ取っていたことが、感想等から伺えた。生徒の進路意識の啓発・高揚を図ることができた。
- (2) 全ての中学校が毎年、全校生徒を対象に本事業を実施し、様々な分野で活躍する方々に接することで、自己の進路意識の向上につながっている。

**4 29年度の目標(値)**

地域の人々との連携による講演会を通して、生徒・保護者の進路意識を啓発し、中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図る。

**5 29年度以降の取組**

県の事業としては終了しているが、本市独自の取組として継続していく。各校の講師の選定が円滑に行われ、より効果的な事業実施ができるよう支援していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,590,000円	決算額	1,547,600円

**1 事業概要**

ことばの発達に不安のある児童生徒や保護者に対して、専門的な指導を行った。

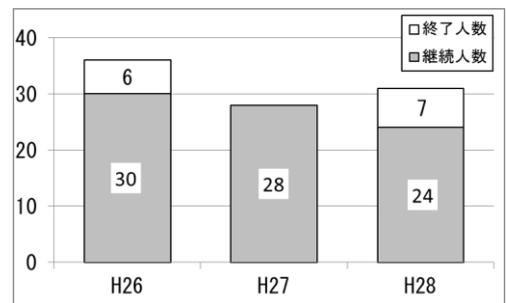
**2 事業実績**

開設日数 75日 開設時間 午後1時～5時（4時間）  
 通級児童数 31人（小学生28人、中学生 3人）うち終了児童数 7人

(1) 児童生徒への言語指導

ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。

イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。



(2) 保護者の来所相談 10件

児童生徒の言語指導への理解を保護者と共有するための来所相談を行った。

(3) 言語指導に係る学校との連携

対象となる児童生徒の在籍する小・中学校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡協議会を夏季休業中に実施し、指導の充実が図られるよう連携を強化した。

**上記2に対する評価**

(1) 児童生徒への言語指導

言語聴覚士による専門的な指導を受けることで、言葉の発音に困難さを抱えていた児童生徒が、正しい発音をすることができるようになることで安心して学校生活を送ことができ、学習意欲の向上にもつながった。

(2) 保護者の来所相談

保護者が不安に思っていることについて専門的な立場から助言することにより、保護者の不安感を取り除くことができた。

(3) 言語指導に係る学校との連携

特別支援教育コーディネーター等在籍校の教員との連絡協議会を実施し、在籍校においてことばの指導の方法や児童の支援について、共通理解を図ることができた。

**4 29年度の目標(値)**

相談件数の増加や相談内容の多様化の他にも、就学前児童の相談件数も増えると予想される。これらについて100%応じられるよう対応していく。

**5 29年度以降の取組**

児童生徒一人一人に対する相談・指導時間を十分確保するため、開設時間等について検討し、相談内容の多様化に対応していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業		
予算額	200,000円	決算額	149,775円

**1 事業概要**

通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童に対し、必要な教育支援を行った。

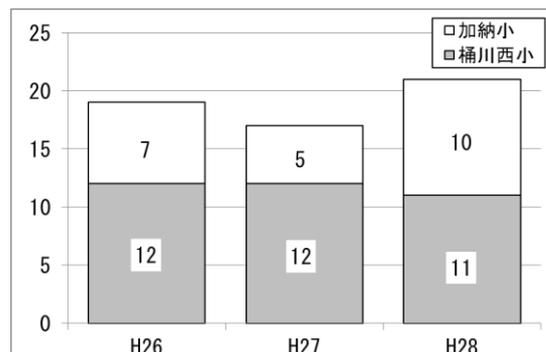
**2 事業実績**

教室通級状況（通級児童数）

平成28年度21人

（桶川西小教室11人、加納小教室10人）

桶川市発達障害・情緒障害通級指導教室「大空」を、桶川西小学校及び加納小学校内に開室し、学校生活や社会生活への適応に支援が必要とされる児童を対象として、担当教員による児童の状況に応じた個別指導及び少人数指導を行った。



**3 上記2に対する評価**

- (1) 個別指導及び少人数指導を行うことで、通常の学級の授業に参加する力や通常の学級に適応する力を向上させることができた。
- (2) 児童一人一人の状況に応じて、コミュニケーション能力の向上や、学習への苦手意識の改善等につなげることができた。
- (3) グループ学習は、一人一人の状況に応じて取組み、回数や日数は異なるが、グループ学習を実施した結果、他の人との関わり合いの中で学習しコミュニケーション能力の向上へとつなげることができた。
- (4) 在籍校教員（学級担任等）と通級教室担当教員が、通級児童への指導・支援において、保護者と共通理解ができ、児童の成長に効果が見られた。

**4 29年度の目標(値)**

通級児童に加えて、通常の学級に在籍している保護者や学級担任、特別支援コーディネーターからの相談の増加が予想される。在籍校と通級担当指導教諭、桶川市で連携を図りながら、多様な相談へ可能な限り対応していく。

**5 29年度以降の取組**

今後、通級指導教室への通級希望児童の増加が見込まれるため、通級指導教室担当教員と通級児童の在籍校教員の連携について継続的に検討していく。また、中学校の通級指導教室の設置を県へ要望し、通級指導教室の小学校から中学校への連携を図り、桶川市として効果的な体制の構築を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		
予算額	900,000円	決算額	900,000円

**1 事業概要**

学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。

**2 事業実績**

小・中学校全校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。

(1) 学校支援活動の内容

ア 小学校7校（ボランティア数：786人）

(ア) 安心安全への支援：登下校の見守り活動やあいさつ運動

(イ) 学習活動への支援：ゲストティーチャーや本の読み聞かせ等の学習活動、図書の本の整理

(ウ) 環境整備への支援：ペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

イ 中学校4校（ボランティア数：135人）

(ア) 教育活動への支援  
：部活動の指導等

(イ) 環境整備への支援  
：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

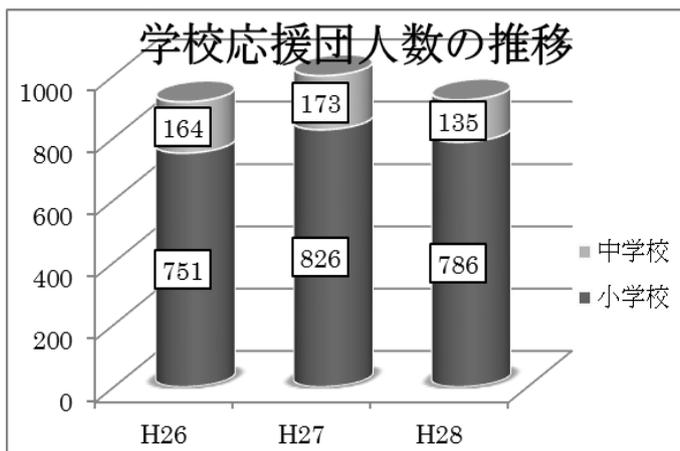
(2) 学校応援団事務局の活動

ア 学校応援団実行委員会

平成28年11月24日（木）

内容「活動内容の充実に向けて」

イ 活動報告書の作成



**3 上記2に対する評価**

(1) 学校支援活動の内容

ア 各校の実態に合わせた特色ある活動が行われ、内容面の充実が図られてきた。

イ 学校と保護者や地域のボランティアが協働することで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てていこうとする意識が高まってきた。

(2) 学校応援団事務局の活動

ア 学校応援団実行委員会において、学校応援団コーディネーター研修会の報告を行い、コーディネーターの役割について協議することができた。

イ 各校の取組をまとめた活動報告書を作成し、情報交換を行うことができた。

**4 29年度の目標(値)**

毎年、作成している活動報告書を活用し、各校の効果的な取組を広めていく。学校応援団実行委員会の参加者を、各学校のボランティアに加え、学校から1名以上の職員の参加を呼びかけることで、学校応援団活動の活性化を図る。

**5 29年度以降の取組**

各校の学校応援団の活動が、学校応援団コーディネーターを中心に学校・家庭・地域が連携した活動になるよう、学校応援団実行委員会を一層機能させていく。今後、コミュニティスクール実施を視野に入れた、学校応援団のあり方を検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	2,442,000円	決算額	2,426,000円

**1 事業概要**

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

**2 事業実績****(1) 教育委員会主催研修会（24,000円）**

項目	実施時期	内 容	参加対象者
桶川市教育講演会	5月11日	講演会「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」施行にともなって	全教職員
道徳教育研修会	8月1日	自校の道徳の指導力の向上に向けて	道徳主任・道徳推進教師
人権教育担当者研修会	8月5日	人権意識の高揚（デートDV防止啓発）	人権教育主任
管理職等人権教育研修会	2月16日	人権教育の現状と課題の認識と実践力の向上	教頭・教務主任等
生徒指導・教育相談 中級研修会	7月28日 8月 3・4日	生徒指導・教育相談推進者として必要な知識・技能の習得	希望教員
小学校英語活動研修	8月 (各校)	英語活動の充実を図るための指導方法	小学校全教員
初任者研修	5.6.7.2月	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員
給食指導法研修会	8月2日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等
保健指導研修会	7月14日 12月15日 3月7日	心身の健やかな発達を促進するための指導の在り方	養護教諭等
体力向上推進研修会	7月7日 12月2日	体力づくり活動やその指導方法等の内容の充実・改善	体育主任等
夏季学校経営・運営研修会	8月17日	学校経営・運営に係る諸問題についての協議及び今後の学校経営・運営の在り方	校長・教頭
臨時的任用教員研修会	7月6日 7日	臨時的任用教員に対する資質向上	臨時的任用教員

**(2) 学校訪問（52,000円 講師謝礼）****ア 定例訪問**

南部教育事務所の協力を得て、各校を各2回訪問し、教育課程、学習指導、学校管理、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。

**イ 各校の自主研修に伴う依頼訪問**

各校の自主研修に伴い、指導主事が学校からの依頼により訪問し教科指導を行ったり、外部から講師を依頼したりして、30回程度自主研修に対する指導・助言を行った。

(3) 学校課題研究 (2,350,000 円)

小・中学校全校に交付金を交付し、それぞれの学校の研究を支援した。  
 交付金額：研究1年目 140,000 円 2年目 230,000 円 3年目 (本発表) 320,000 円  
 また、本発表校には、研究発表会の開催に至るまで支援及び全体会での指導講評を行った。

学 校 名	研究領域	研修主題等	備 考
桶 川 小	図画工作科	ともに認め合い 生き生きと活動する 児童の育成	研究1年目
加 納 小	国語科	学ぶ意欲を高め確かな学力を育む授業の創造	研究2年目
川田谷小	体育科	意欲的に運動に取り組み、心身を磨き合う児童の育成	研究1年目
桶川西小	算数科	学ぶことの楽しさを味わわせ、基礎基本の定着を図る算数指導	研究2年目
桶川東小	外国語活動	積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成	研究1年目
日出谷小	国語科	自分の思いや考えを豊かな言葉で表現できる児童の育成～書いて伝えることを通して～	12月6日日本発表
朝 日 小	算数科	どの子にもわかる・できるを実感させる算数科学習～特別支援教育の視点を生かした学びの創造～	11月10日日本発表
桶 川 中	生徒指導	自己肯定感を高める生き方指導	研究1年目
桶川東中	学習指導	基礎・基本の確実な定着を目指した学習指導の工夫	研究1年目
桶川西中	学習指導	確かな学力を育む指導方法の研究	研究2年目
加 納 中	学習指導	主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の研究	10月25日日本発表

**3 上記2に対する評価**

(1) 教育委員会主催研修会

各校の教職員が、各研修会を通して、今後の教育に求められる専門的知識や児童生徒の指導に生かす指導方法について研修を実施することができた。

(2) 学校訪問

県教育局南部教育事務所からの支援を受け、学校訪問の際、各校の課題を踏まえて教育活動の改善を図るため、指導・助言を行うことができた。

(3) 学校課題研究

各校が自校の課題を解決するために、研究に取り組み、その成果を発信し、桶川市全体の教育活動の充実を図ることができた。

**4 29年度の目標(値)**

(1) 学校訪問を2回以上実施する。

(2) 学校課題研究を市内小・中学校全11校で取り組む。

**5 29年度以降の取組**

(1) 本市教職員の指導力向上に向けた研修の実施や研修参加者からの意見を取り入れた研修を企画運営していく。(初任者研修や市教委主催研修)

(2) 学校訪問での指導主事等によるきめ細かな指導・助言を行い指導力の向上を図る。(特に初任から5年経験者までの若手教員)

(3) 各校の課題解決のために、研究の進捗状況に合わせて、計画的に指導・助言を行い、研究の成果が上がるよう支援する。

(4) 次期学習指導要領実施に向け、授業改善を視点においた授業の実施を目指し、指導・助言を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	学校教育における人権教育の推進事業		
予算額	200,000円	決算額	191,849円
<b>1 事業概要</b>			
<p>学校の教育活動全体を通じて、主体的に人権課題を解決しようとする児童生徒を育成するため、教職員の研修を実施し、各学校の人権教育推進体制の充実を図った。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>(1) 各学校における人権教育推進体制の充実</p> <p>(2) 人権作文・人権標語の募集と文集「かがやき」の発行（171,849円）</p> <p>(3) 教職員の研修（20,000円）</p> <p>ア 桶川市人権教育担当者研修会 桶川市役所仮設庁舎会議室302にて 8月5日（金）講師 埼玉県男女共同参画推進センター相談員 神谷 文子 氏 参加者 14人（うち、各校人権教育担当等教諭12人、こども支援課2人）</p> <p>イ 桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会 桶川市役所仮設庁舎会議室301にて 2月16日（木）講師 部落解放同盟埼玉県連合会北足立郡協議会女性部事務局長 古河 邦子 氏 参加者 16人（各校教頭及び教務主任等）</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 各学校における人権教育推進体制の充実</p> <p>各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置付けることができた。また、人権感覚育成プログラムについても年間計画に位置付け、実践された。さらに、児童虐待について、対応する組織が整備され、学校教育での推進体制の充実を図ることができた。</p> <p>(2) 人権作文・人権標語の募集と文集「かがやき」の発行</p> <p>各学校で人権作文及び人権標語に取組、児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。さらに、作品を選定し、人権作文の文集「かがやき」を発行し、児童生徒が良い作品に触れ、人権意識がさらに高まるよう各学校に配付し、活用を促した。</p> <p>(3) 教職員の研修</p> <p>各学校において、校内研修で各種人権課題を取り上げ、人権感覚育成プログラムを活用した研修を実施した。また、市教委主催の研修会として、管理職対象研修には同和問題を、人権教育担当者対象研修にはデートDVの防止をそれぞれテーマとして実施し、教職員の理解を深めることができた。</p>			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
人権教育担当者研修会及び管理職等人権教育研修会の参加教職員等を延べ30人。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
引き続き各種人権課題について、教職員研修を通して理解を深めるとともに、児童生徒の指導について先進事例等を活用した実践を推進する。			

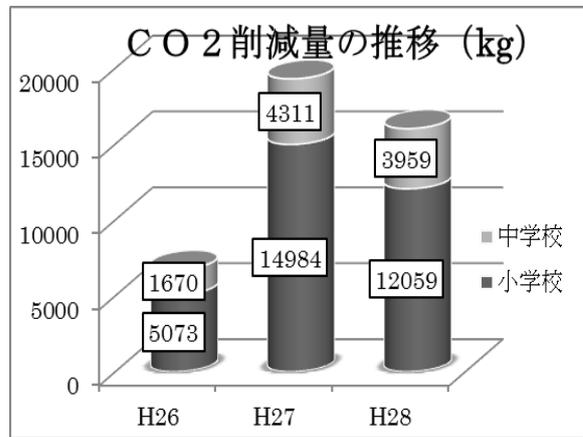
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円

**1 事業概要**

児童生徒が環境問題に気づき、環境を守ろうとする態度を育成するための環境教育を推進する。

**2 事業実績**

- (1) 各校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を適切に作成し、指導の充実を図った。
- (2) 地域の自然環境や社会環境を生かして、学校ファームをはじめとして桶川ロータリークラブ主催の「ジャンボスイカコンテスト」や「学校緑のグリーンカーテン運動」など、地域や外部と連携しての学校緑化活動の推奨を行った。また、各小学校では、身近な環境を考える機会として、市環境センターや浄水場等を利用した校外学習を実施した。
- (3) 県の事業「エコライフDAY」に市内全小・中学校で取り組み、家庭と共同して二酸化炭素削減の意識を高めた。また、この結果を広報「おけがわ」に掲載し、市民の意識啓発も図っている。



**3 上記2に対する評価**

- (1) すべての学校で環境教育の全体計画・年間指導計画の作成がされている。環境教育の一層の推進に向けて、児童生徒の実態、地域の実態を考慮して、年間指導計画等の見直しや修正を図っていく必要がある。
- (2) 各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間と相互の関連を図る中で、児童生徒は身近な環境については意識することができた。また、みどりの学校ファーム等の取組を通して、体験的な学習活動が実践された。
- (3) 全小・中学校において、家庭を巻き込んで取り組まれており、参加人数も増加している。今後、CO2削減量の目標を設定するなど、環境問題への意識を高める工夫を行う。

**4 29年度の目標(値)**

引き続き「エコライフDAY」に市内全小・中学校で取り組み、過去の取組結果を示すなどの工夫をして、家庭と共同してより一層、CO2削減の意識を高めていく。

**5 29年度以降の取組**

環境教育について、各学校間の連携を図るため、各校における取組内容の情報交換を行う機会を設定する。また、学校応援団等、外部の教育力を活用し、環境教育の充実を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる														
施策	学校教育の充実（2022）														
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）														
事業名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業														
予算額	0円	決算額	0円												
<b>1 事業概要</b>															
<p>(1) 発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図る。</p> <p>(2) 施設体験活動を通して、教職員の社会福祉への関心と理解を深める。</p>															
<b>2 事業実績</b>															
<p>(1) 各校において、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定し、教科及び道徳・特別活動・総合的な学習の時間等で実践した。</p> <p>また、中学校社会体験チャレンジ事業において、市内社会福祉施設の協力を得て、ボランティア体験に参加した。（7施設（事業所）：34人参加）</p> <p>さらに、春のふれあいフェスタ等へ市内中学生が自主的に参加し、ボランティア活動を行った。</p> <p>(2) 5年経験者研修の施設体験研修を、市内社会福祉施設で実施した。</p> <p>5年経験者研修教員：12人、5施設</p>															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>5年経験者研修教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桶川さといも作業所</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ワークハウスさといも</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>桶川市社会福祉協議会</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>べに花の郷</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>りんごの家</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	5年経験者研修教員	桶川さといも作業所	2人	ワークハウスさといも	2人	桶川市社会福祉協議会	2人	べに花の郷	3人	りんごの家	3人
施設名	5年経験者研修教員														
桶川さといも作業所	2人														
ワークハウスさといも	2人														
桶川市社会福祉協議会	2人														
べに花の郷	3人														
りんごの家	3人														
<b>3 上記2に対する評価</b>															
<p>(1) 各校において、車いすやアイマスクの体験活動、赤い羽根等の募金活動やベルマーク収集活動、社会福祉施設等への訪問・職場体験を通して、児童生徒が発達段階に応じて、ボランティア活動・福祉体験に触れる機会を設定し、社会福祉への関心と理解を深めることができた。</p> <p>(2) ボランティア活動や福祉教育についての教員の理解を深めるため、5年経験者研修の施設体験研修を、市内社会福祉施設の協力を得て実施した。教員の社会福祉への関心と理解を深めることができた。</p>															
<b>4 29年度の目標(値)</b>															
5年経験者教職員の資質向上に向けた施設体験研修の実施や研修参加者からの意見を取り入れた研修を企画運営していく。															
<b>5 29年度以降の取組</b>															
<p>(1) 社会福祉協議会の「福祉体験学習ボランティア」を活用するなど、発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験が充実するよう、全体計画・年間計画の見直しを行う。</p> <p>(2) 5年経験者研修において、地元の施設に協力をお願いし、教員の資質向上を図るとともに、地域理解を図る。</p>															

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業		
予算額	4,240,000円	決算額	4,228,652円

**1 事業概要**

児童・生徒に本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与える学校図書室の図書購入を行った。

**2 事業実績**

小・中学校全体で4,240,000円の予算を学校に配当し、小学校で2,950,061円、中学校で1,278,591円の図書を購入した。

＜平成28年度小・中学校図書室蔵書数等＞

	標準冊数	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数	図書標準達成率(%)		
					26年度	27年度	28年度
小学校全体	68,920	2,090	1,596	72,552	100.9%	103.2%	105.2%
中学校全体	47,920	1,023	1,177	50,068	100.9%	101.7%	106.9%

＜平成28年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学校名	学級数	標準冊数	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数	図書標準達成率
桶川小	21	10,960	280	325	13,378	122.1%
桶川西小	23	11,360	310	250	11,518	101.4%
加納小	13	8,360	310	200	8,262	98.8%
川田谷小	12	8,360	280	275	8,567	107.6%
桶川東小	24	11,560	320	175	10,732	92.8%
日出谷小	14	8,760	310	100	9,289	106.0%
朝日小	16	9,560	280	271	10,806	113.0%
桶川中	17	13,120	325	100	13,423	102.3%
桶川東中	16	12,640	325	139	12,743	100.8%
桶川西中	17	13,120	305	262	14,900	113.6%
加納中	9	9,040	325	160	10,032	111.0%

**3 上記2に対する評価**

各小・中学校とも「学校図書館図書標準」\*の達成を目標として取り組んだ結果、昨年度に比べ図書標準達成率が100%を超えた学校が7校から9校に増加した。

\*「学校図書館図書標準」学校図書館の図書の整備を図る際の目標として国が設定したもの

**4 29年度の目標(値)**

100%に達していない市内小学校2校において、現有冊数を標準冊数に近づける。

**5 29年度以降の取組**

図書標準達成率は平均値では100%に達しているが、各小・中学校で比較すると数値に差異が見られる。児童生徒が読みたくなるような図書の購入と古くなった図書の修理をしながら、引き続き全校学校図書館の図書標準達成率100%を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	就学援助事業		
予算額	（学務課）37,375,000円 （学校支援課）240,000円	決算額	（学務課）36,616,477円 （学校支援課）11,420円

### 1 事業概要 [学務課・学校支援課]

- (1) 児童・生徒の義務教育に対する機会均等を図るため、経済的に困難である保護者に対し、就学費用の援助を行う。また、特別支援教育の普及・奨励と入級児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支援する。
- (2) 要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健安全法で定められた疾病の医療費の援助を行う。

### 2 事業実績

#### (1) 平成28年度就学援助費執行状況 [学務課]

	要保護	準要保護	特別支援教育	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	特別支援教育 就学援助費
小学校	5人	245人	27人	5,840,072円	10,381,605円	1,585,792円
中学校	6人	167人	21人	9,247,790円	7,720,745円	1,840,473円

#### (2) 平成28年度医療費補助執行状況 [学校支援課]

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小学校	1人	4件	0人	0件	11,420円
中学校	0人	0件	0人	0件	0円

### 3 上記2に対する評価 [学務課・学校支援課]

- (1) 経済的に就学が困難な保護者に対し援助を行った。認定にあたっては現行の基準に基づき、所得だけではなく家庭状況や学校長、担任の所見等を考慮し適正に支給することができた。（本年度は現行の基準に関しても見直しを行った。）
- (2) 保護者への案内配付（市内全児童・生徒の家庭へ配付）と併せ、広報、市HP等に事業を広報し、申請促進を図ることができた。
- (3) 医療費受給者に対して適正に医療費の援助を行うことができた。また、学校、医療機関などと連携を密にし適正に事務処理を行うことができた。

### 4 29年度の目標(値)

援助の必要な保護者が申請できるように更に制度の周知を図ると共に適正な事務処理を継続する。

### 5 29年度以降の取組み [学務課・学校支援課]

- (1) 社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行っていく。
- (2) 就学援助事業を周知するお便りをよりわかりやすいものにし、申請促進を図る。
- (3) 認定基準の改正を実施するとともに、新入学児童生徒学用品費の入学前支給に関しては他市町村の状況も踏まえ、検討していく。
- (4) 学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校評議員会の設置事業		
予算額	369,000円	決算額	355,100円
<b>1 事業概要</b>			
<p>学校、家庭、地域が連携協力しながら一体となって子供の健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、教育委員会が各小・中学校の学校評議員を委嘱した。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>学校評議員とは、子供の健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、校長の行う学校運営や学校の教育活動に関し意見を述べ、又は助言を行う者である。各学校では、学校評議員連絡協議会を開催し、学校運営等について貴重な意見や助言をいただいた。</p> <p>委員数：5名（11校）、計55名  （謝金 6,700円×53名＝355,100円）市の職員等を除く</p> <p>開催回数：2回（1校）、3回（9校）、4回（1校）</p> <p>主な内容：〈説明・見学〉「学校概要説明」「学校評議員制度の説明」  「授業・行事参観」「施設設備見学」「給食試食」等  〈意見交換〉「教育活動…小中連携、参観の感想等」  「児童生徒の状況…地域での様子、参観の感想等」  「学力テストの結果…分析、成果と課題等」  「安全について…登下校、食物アレルギー等」  「いじめ防止について…ネットトラブル等」</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 学校は取組を発信する事で、保護者・地域に教育活動のねらいや成果を明確にし、その取組の成果や発信力が高まってきている。</p> <p>(2) 学校ごとの課題に対し、評議員から具体的な意見や助言をいただくとともに、地域の情報の収集も行え、教育活動の改善・推進に役立てている。</p> <p>(3) 授業参観や学校公開に併せて実施することで、実際の様子を参観していただくとともに、保護者にも評議員について知ってもらう契機となっている。</p> <p>(4) 年間3回が一番多く、学期に一度の開催が定着している。</p> <p>(5) 評議員と関係者評価委員を兼ねている方もおり、意見や助言をもらう場面と評価をもらう場面を区別した会のもち方の必要性を感じる。</p>			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
各学校評議員からの意見や助言を取り入れた教育活動の改善や成果の検証			
<b>5 29年度以降の取組み</b>			
<p>(1) 各学校の実態にあった学校評議員会のあり方を検討してもらう。</p> <p>(2) コミュニティ・スクール実施を見据え、学校運営協議会設置に向けた学校・保護者・地域からの意見や助言の収集。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校関係者評価委員会の設置事業		
予算額	132,000円	決算額	56,000円
<b>1 事業概要</b>	<p>学校が行う自己評価の客観性及び透明性を高め、教育活動その他学校運営の改善をするために、教育委員会が学校関係者評価委員会委員を委嘱した。</p>		
<b>2 事業実績</b>	<p>学校関係者評価委員会は、学校が行う自己評価の結果を評価することを通じて、学校の自己評価の客観性・透明性を高めるために組織されている。また、学校・家庭・地域が学校運営の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携を促し、学校運営の改善を促進する役目も担っている。</p> <p>委員数：8名（7校）、7名（2校）、6名（2校）計82名  （謝金 4,000円×14名＝56,000円）</p> <p>※謝金対象者は学校評議員を兼務、接続している学校の職員を除く。</p> <p>活動回数：2回（5校）、3回（5校）、4回（1校）</p> <p>主な内容：学校の教育活動視察、学校自己評価の報告を受けての協議  学校評価結果報告の作成</p>		
<b>3 上記2に対する評価</b>	<p>(1) 学校が自己評価を学校関係者評価委員に説明し、それに対して評価をもらうことで、教育活動に今まで以上に目的をもって臨めるようになってきた。</p> <p>(2) 学校の現状と課題について、共通理解のもと協力体制をとってもらえるので、学校は課題を明確にして、その解決に取り組み、委員には結果のみならず経緯も含めて評価してもらえる。</p> <p>(3) 3回が5校と一番多く、学期に1度開催することが定着している。</p> <p>(4) 平日の日中開催であるため、全員参加が難しい。会のもち方や委員の選出等、学校にあった工夫改善が必要である。</p>		
<b>4 29年度の目標(値)</b>	<p>学校評価の客観性・透明性を高めるために、市内全11校でHPにアップする。</p>		
<b>5 29年度以降の取組み</b>	<p>(1) 会のもち方や委員の選出に学校の独自性を出していく。</p> <p>(2) 学校関係者評価委員会の成果が見える報告様式の検討。</p> <p>(3) コミュニティ・スクール実施を見据え、学校運営協議会設置に向けた学校・保護者・地域を巻き込んだ組織の再編。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務		
予算額	1,440,000円	決算額	1,432,000円

**1 事業概要**

桶川市立小中学校教職員の事故防止、及び、市費対応に係る臨時的任用教職員の配置

**2 事業実績****(1) 教職員事故発生件数**

	件数(件)
体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	0

**(2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況**

	欠員補充者(人)	市費負担日数(日)	市費負担費用(円)
小 学 校	7	78	624,000
中 学 校	7	85	680,000
合 計	14	163	1,304,000

**(3) 病休等に係る臨時的任用教職員の配置状況**

	病休等者数(人) ※8日以上	代替者数(人)	市費負担(日)	市費負担費用(円)
小 学 校	5	1	4	32,000
中 学 校	7	1	12	96,000
合 計	11	2	16	128,000

**3 上記2に対する評価**

- (1) 各校に倫理確立委員会・教職員事故防止の研修会の実施報告を求めることで、教職員事故「0」を達成することができた。
- (2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員を発令までの間、市費で補うことで児童生徒の指導に空白を作らないよう教職員を配置することができた。
- (3) 学校側と早目の連絡・調整を取り合い、南部教育事務所・近隣市教委と連携を密にしたことで、学校運営に支障をきたすことなく教職員を配置することができた。

**4 29年度の目標(値) 教職員事故絶無に向けた啓発活動の推進（事故0の継続）****5 29年度以降の取組**

- (1) 事故防止に向けた研修を推進し、教職員の服務規律を徹底することで教職員事故の防止に努めていく。
- (2) 臨時的任用教職員の確保については、広報おけがわや桶川市ホームページなどで広く募集し、南部教育事務所や近隣市町教委とも連携を図りながら人員を確保していく。
- (3) 教職員の出退校時刻の把握を行う。また、各校の衛生推進者を中心に労働環境を整備するとともに、風通しの良い職場づくりを推進する。業務負担軽減に向けた取組を推進していく。病休者等への対応を迅速に行い、学校運営を円滑に行うことができるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	50,000円	決算額	50,000円
<b>1 事業概要</b>			
教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会、教員免許更新確認を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 教職員人事評価			
(2) 研修会の開催			
ア 人事評価に係る評価者研修会			
イ 夏季学校経営・運営研究協議会（決算額 50,000 円）			
ウ 臨時的任用教職員研修会			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講及び、免許更新確認			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) 教職員人事評価の実施			
評価者である校長・教頭が教職員に自己評価シートに基づき計画的に面談（当初・中間・最終）を行った。各小・中学校の校長の学校経営方針と個々の教職員の目標をリンクさせることで学校全体の教育力を向上させるよう、当初面談の充実を呼びかけ、「チーム学校」の意識が高まってきている。			
(2) 研修会の開催			
ア 人事評価に係る評価者研修会では、昨年度の実践を活かし、県での研修内容を確実に伝達することにより、管理職の公平な人事評価につながった。			
イ 校長・教頭部会のみならず、主幹教諭部会を開催することで、学校の教育力強化を支援することができた。			
ウ グループ協議を取り入れた演習を実施し、満足度調査の結果、参加者は十分或いはおおむね満足（4段階評価の上位2つ）しており、実践的な研修の時間とすることができた。			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認			
教員免許状の写しを全教職員に2部提出してもらい、1部を学校、1部を教育員会で保管することで、更新対象者をダブルチェックできるようにした。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
人事評価においては人材育成・学校の教育力向上という視点に重点を置いた運用を推進する。			
各種研修会においては各課題や満足度調査等に対応した内容を企画、立案する。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
(1) 人事評価制度の適切な運用のための情報提供と情報共有			
(2) 目的をもった研修会の開催と運営			
(3) 教育委員会保管の教員免許状写しの保管・活用方法の検討			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTAリーダー研修会		
予算額	25,000円	決算額	0円
<b>1 事業概要</b>			
小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及びPTA家庭教育学級の企画運営方法や家庭教育のあり方等について研修を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
開催日・会場：平成28年5月27日（金） 桶川東公民館 大会議室			
テーマ：「家庭学習と親の関わり方について」 ～子どものやる気と親のあり方～			
講師：埼玉県家庭教育アドバイザー 小川 かづ江			
参加者：50人			
		26年度	27年度
		43人	48人
		28年度	50人
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) PTA活動の促進と役員の意欲づけについて ワークシートを使ったり、講師が会場内を歩いて回ったりして、参加者と対話をしながら、演題に沿って進めてくれた。講師の表情や話題に参加者の気持ちも和み、予定した時間があっという間に過ぎたと感じた。			
(2) 参加者数について 平成27年度より2名参加者が増え、目標値に達した。			
<b>4 29年度の目標(値)</b> 参加者数50人以上			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
(1) 本事業のねらいは「子供たちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めること」であることから、関係機関の情報等も活用し、今日的な親の悩みに応えられるような研修内容、講師の選定などを行う。			
(2) 参加者数については、昨年度より増加したものの、各学校への働きかけをさらに促進し目標値を達成していく。			
(3) 研修でアンケートを実施し、参加者の満足度を捉えるとともに、講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定し、参加者の拡大を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事 業 名	PTA家庭教育講演会		
予 算 額	401,000 円	決 算 額	371,710 円
<b>1 事業概要</b>			
<p>小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と高等学校PTAとの共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>PTA家庭教育講演会『手をつなごうPTAべに花講演会』                  開催日・会場：平成29年1月14日（土） 桶川市民ホール                  講演会：「夢をかなえるために」</p> <p>①「夢とお笑い」ななめ45°氏（お笑い芸人）                  ②「人生って、きっと、もっと、おもしろい」富永哲氏                  （株式会社 東京義賊代表取締役・大道芸人）</p> <p>内 容：講演のほか、桶川高校ダンス部、桶川西高校科学部による発表、桶川高校・加納中学校吹奏楽部による演奏                  対象者：小・中学校PTA会員、桶川高校・桶川西高校PTA会員、一般市民                  その他：東日本大震災募金実施</p>			
参加者数	26年度	27年度	28年度
	400人	590人	600人
<p>参加者数：600人                  歳出：講師料100,000円、使用料271,710円</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 家庭教育力の向上と青少年の健全育成について                  より幅広い年齢層の子供たちを育てるという趣旨のもと、今年度も教育委員会、市PTA連合会、桶川高校・桶川西高校PTAとの共催で事業を行った。このことにより、各PTA間の連携が図られ、大変有意義な事業となった。また、幅広い保護者の意識の向上と教養を深めることができた。</p> <p>(2) 講演会の準備、運営、内容について                  合同会議の開催により、テーマ、講師の人選、予算の使途、役割分担等について活発な意見交換がなされた。講演会については、地域の人材を活用するという点を講師 ななめ45°氏（お笑い芸人）、富永哲氏（大道芸人）の選定の上で考慮した。また、今年度は、桶川高校ダンス部、桶川西高校科学部による発表を取り入れ、当日は多くの参加者があり、本年度も共催の意義は達せられた。</p>			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人材活用と小・中・高校PTAによる合同会議の開催</li> <li>・ 参加者数600人以上</li> </ul>			
<b>5 29年度以降の取組み</b>			
<p>本事業は、家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的に開催されている。市内に、小・中・高等学校がある強みを生かし、合同で実施することによって家庭、地域の教育への関心を高められるよう内容を検討していく。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる			
施策	就学前教育の支援・充実（201）			
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）			
事業名	「親の学習」講座			
予算額	55,000円	決算額	55,000円	
<b>1 事業概要</b>				
より多くの保護者に、子育てやしつけ等の家庭教育のあり方を見つめ直してもらうよう「親の学習」講座を行った。				
<b>2 事業実績</b>				
小学校では、埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明氏を指導者として、「5つの目で子供を見よう」をテーマに、家庭教育に関する学習を行った。				
中学校では、埼玉県ネットアドバイザーの永原敏明氏を指導者として、「スマートフォン及びインターネットに潜む危険性」をテーマに講座を行った。				
(1) 参加状況は下表のとおり。(表中カッコ内は前年度) 歳出：講師謝礼 55,000円				
	小・中学校名	対象者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)
	桶川西小	108	108	100.0
	加納小	42	40	95.2
	川田谷小	42	38	90.5
	桶川東小	138	135	97.8
	日出谷小	79	77	97.5
	朝日小	60	60	100.0
	桶川小	116	113	97.4
	小計	585(612)	571(598)	97.6(97.7)
	桶川中	172	168	97.7
	桶川東中	151	138	91.4
	桶川西中	166	150	90.4
	加納中	146	133	91.1
	小計	635(632)	589(550)	92.8(87.0)
<b>3 上記2に対する評価</b>				
(1) 小学校では、各校に協力を要請し、児童が保護者から離れて健康診断を受けている時間に、家庭教育アドバイザーの講話を効果的に提供することができた。				
(2) 中学校では、4校すべてにおいて学校説明会の前に設定し、子供にスマホを「持たせない選択」か「持たせる覚悟を持つか」について、具体性を持たせた内容を提供できた。				
(3) 小学校の参加率は、昨年度と同様、中学校の参加率は昨年度を上回り、目標値を達成している。				
<b>4 29年度の目標(値)</b>				
参加率93%				
<b>5 29年度以降の取組</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>実施時期について、小学校では就学時検診時、中学校では入学説明会前での講座開催という形が定着しており、多くの参加者が見込めることから、平成29年度も実施していく。</li> <li>テーマについては、今後も必要に応じて検討、見直しを図っていく。</li> </ul>				

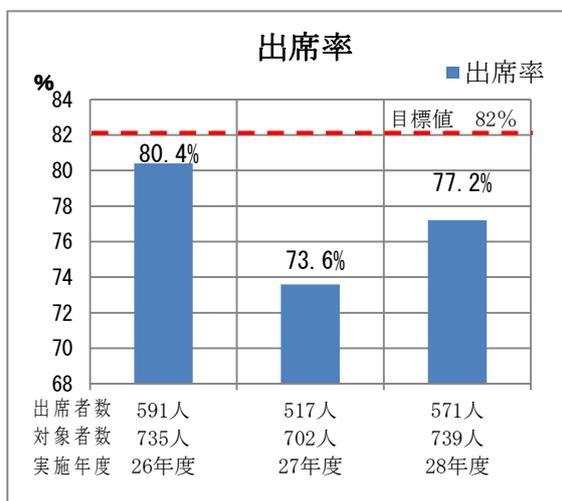
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事業名	成人式典		
予算額	423,000円	決算額	403,072円

**1 事業概要**

「成人の日」を成人になったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出とともに祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式にて実施した。

**2 事業実績**

開催日・会場：平成29年1月9日（月）成人の日 桶川市民ホール  
 テーマ：「NEXT STAGE～過ぎし7305日、新たな船出へ～」  
 開催内容：第1部 式典、第2部 アトラクション



**【実行委員会】**

実行委員は広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人15人で構成され、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営についても主体的に行った。

歳出：消耗品等需用費 179,982円、施設使用料 223,090円

**3 上記2に対する評価**

- (1) 実行委員会の実行委員については15名中公募が10名と例年より多かった。各実行委員は実行委員長主導のもと、式典の企画、準備、当日の運営を主体的に行い、式典を終えることができた。
- (2) 対象者数739人、出席者数571人、出席率は77.2%と前年度よりも増えた。
- (3) 新成人式研究会主催の第17回「成人式大賞2017」（文部科学省後援）では優秀賞に選ばれ、平成21年から9年連続受賞となり、高い評価が得られた。

**4 29年度の目標(値)**

出席率82%（第5次総合振興計画目標値）

**5 29年度以降の取組**

- (1) 実行委員の応募を広報、ホームページだけでなく、駅の掲示板に掲示し、周知を図り、今後も公募者が多くなるように工夫する。
- (2) 新成人の参加率が増加するように、周知方法と案内状を実行委員と検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	20,045,000円	決算額	19,257,346円

**1 事業概要**

子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に桶川市放課後子供教室を開室した。

**2 事業実績**

(1) 国が推進している「放課後子ども総合プラン」に基づき、5月から桶川東小学校、日出谷小学校、桶川西小学校及び朝日小学校で、9月からは新たに桶川小学校西側学習室（前半分）、加納小学校低学年図書室及び川田谷小学校学校応援団室で放課後子供教室を実施した。市内全小学校で実施した。

(2) スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、安全管理員、協力員）及び運営委員会（学校長、PTA、自治会及び行政関係者、コーディネーター）を設置した。

（表は平成29年3月31日時点。表中のカッコ内は前年度実績。「スタッフ人数」は登録者（団体）数。）

開室年度	学校名	参加児童数(人)	活動日数(日)	スタッフ人数
H24	桶川東小学校	30(26)	127(125)	53人・9団体
H24	日出谷小学校	42(32)	115(127)	44人・7団体
H27	桶川西小学校	46(41)	134(99)	45人・11団体
H27	朝日小学校	47(25)	117(87)	38人・7団体
H28(新規)	桶川小学校	17	113	28人・7団体
H28(新規)	加納小学校	22	104	37人・7団体
H28(新規)	川田谷小学校	7	67	34人・7団体

(3) 事業方針については、以下のとおり。

- ・ 交流の場を設けることにより、地域住民及び異なる学年との交流を支援する。
- ・ 体験の場を設けることにより、文化活動、体験活動、スポーツ活動等を支援する。
- ・ 学びの場を設けることにより、自主的な学習を支援する。

主な歳出：報償費 13,330,215円、空調機借上 1,548,720円、備品購入費 1,750,820円

**3 上記2に対する評価**

- ・ 継続校においては、年間の活動を通じてスタッフと参加児童、参加児童同士、スタッフ同士の信頼関係を深めることができた。また、学校側・保護者側の理解を深めることができた。
- ・ 新規校においては6月頃から準備を進め、コーディネーターを始めとするスタッフの熱心な取組により無事に9月開室を迎えられた。
- ・ アンケートでは子供たちだけではなく、保護者からもスタッフが企画した事業内容について高評価を得られた。

**4 29年度の目標(値)**

各校それぞれの特色が出る放課後子供教室を実施する。また、スタッフの人員確保及び研修等による能力の向上を図る。

**5 29年度以降の取組**

スタッフの人選・募集方法を検討する。各学校のスタッフ・学校長・放課後児童クラブとの調整を綿密に行う。

参加児童が定員に満たない学校については、年度途中で募集案内を再度行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	青少年健全育成事業		
予算額	2,056,000円	決算額	2,008,090円

## 1 事業概要

青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。

- (1) 青少年問題協議会の開催
- (2) 青少年健全育成市民会議の推進
- (3) 青少年育成団体への支援

## 2 事業実績

- (1) 青少年問題協議会の開催

第1回：平成28年7月4日（月）

- 内 容：① 平成28年度青少年健全育成の取組みについて  
 ② 青少年問題の現状について  
 ③ 意見交換等  
 ④ 桶川市いじめ防止連絡協議会委員の選出について

- (2) 青少年健全育成市民会議の推進

ア 総会・講演会の実施（5月14日、桶川東公民館で開催）

「青少年のネット利用の問題点」～スマートフォンの利用を中心に～をテーマに、講師に永原敏明氏を迎え、講演会を実施。

参加者数 98 人（前年度 89 人）。

イ 私たちの主張作文コンクール、家庭の日ポスターコンクールを実施

ウ 市民大会の実施（11月19日、桶川東公民館で開催）

青少年育成埼玉県民会議より補助金を受けて、青少年育成功労賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰及び講師に安川雅史氏を迎え、「ネット依存、ネットいじめの現状」～家庭の親子での関わり方～をテーマとする講演会を行った。参加者数 155 人（前年度 190 人）。

エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）

オ 親子ふれあいウォークの実施

第1回【10/8】加納地区参加者：46人

第2回【10/24】川田谷地区参加者：114人

カ おけがわ春のふれあいフェスタへの参画（5月8日、駅西口公園で開催）

キ 子ども教室「あそびっこ」の実施（朝日小学校 11回 参加者数合計 243人）

ク 巡回指導の実施 延べ 222 人（前年度 168 人）。

- (3) 青少年関係団体への支援

各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。

〔補助金等交付実績〕

件 名	金 額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	722,000 円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	680,000 円
青少年相談員協議会補助金	154,000 円
おけがわ春のふれあいフェスタ実行委員会交付金	500,000 円

**3 上記2に対する評価**

- (1) 青少年問題協議会の活動については、参加委員各々の立場から現状報告を行い、今日的な課題である子供のスマートフォン、ゲームの利用、子供の問題行動や不登校などについて活発な意見交換と情報交換が行われた。第2回については議題がないため実施しなかった。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、総会及び市民大会の講演会を今日的なテーマとし、参加者にとって興味深いものになった。市民大会で表彰する作文・ポスターコンクールは、応募作品数が学校毎で大きな差があり、より周知をする必要がある。巡回指導の実施については、目標値の200人を上回る活動を行うことができた。
- (3) 青少年育成団体への支援については、財政的な支援を行うことで、青少年健全育成の推進が図られている。また、補助金等も効果的かつ適正に執行されている。

**4 29年度の目標(値)**

市民大会参加者数 200人、親子ふれあいウォーク参加者数 合計200人

**5 29年度以降の取組**

- (1) 青少年問題協議会については、各委員から現状報告を行ってもらい、情報の共有化を図る。また、協議会で得られた情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映できるように、更なる連携を深めていく。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、市民大会への参加者が目標値の200人となるよう、各種事業について、PRの充実を図るとともに、時代のニーズに即した事業展開を行う。
- (3) 青少年育成団体への支援については、子ども会加入者数及び青少年相談員委嘱者数は減少傾向にあり、今後とも積極的に事業ができるよう財政支援等を行い、青少年育成団体の活動を促進していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	30,000円	決算額	24,238円
<b>1 事業概要</b>			
生涯学習に係る情報を広く市民に知っていただくため、生涯学習関連の情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに以下の情報提供を行った。			
(1) 情報紙「生涯学習ガイド」の発行			
市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月260部、8月280部、12月300部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。			
(2) 児童・生徒向け学習情報紙の発行			
夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を7月に発行し、全児童・生徒に配布した。また、公共施設にも設置した。			
歳出：需用費 24,238円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
各課・施設の協力の下、幅広く情報を収集し、市民に対し情報提供を行うことができた。			
また、「生涯学習ガイド」の設置個所を前年度より増やすことができ、より一層の周知が図れた。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用紙の色を工夫するなど、見やすい・見つけやすい情報誌を作成する。</li> <li>・ 各課・施設に協力を呼びかけ、掲載する情報を増やす。</li> </ul>			
<b>5 29年度以降の取組み</b>			
生涯学習情報の提供については、今後も各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報誌を作成していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0円	決算額	0円

**1 事業概要**

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師を派遣して講座を開催した。

**2 事業実績**

実施回数：13回

参加延人数：796人

〔実施内容〕

	26年度	27年度	28年度
回数	9回	14回	13回
延人数	686人	877人	796人

	担当課	講座名	利用団体	参加人数
1	高齢介護課	介護予防教室	高齢者	13
2	健康増進課	生活習慣病予防について	中学校	171
3	生涯学習文化財課	桶川の歴史と民俗	中学校	158
4	産業観光課	「べに花って、な・あ・に？」	小学校	73
5	リサイクル推進課	みんなでつくる循環型社会	中学校	159
6	健康増進課	オケちゃん健康体操	高齢者	15
7	税務課	知っておきたい税金の話	成人	20
8	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	高齢者	35
9	高齢介護課	特製メニュー	高齢者	28
10	鴨川・日出谷保育所	特製メニュー	幼児・保護者	22
11	健康増進課	オケちゃん健康体操	小学校	37
12	生涯学習文化財課	桶川の歴史と民俗	高齢者	25
13	高齢介護課	聞いてみたい介護保険【介護予防教室】	高齢者	40

**3 上記2に対する評価**

講座メニューは30講座（前年度31講座）があり、そのうち上記〔実施内容〕の講座が利用された。広報やホームページへの掲載、校長会等で出前講座の周知を図ったが、前年度とほぼ同様の利用回数となった。

また、自治会や学校によっては毎年職員出前講座を活用している団体があり、リピーター率が増加しているため、新規利用団体等を増やすことができれば、波及効果は大きく、利用回数も伸びていくことと考える。

**4 29年度の目標(値)**

利用件数15件以上

**5 29年度以降の取組**

- ・ 問合せ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばしていく。
- ・ 広く職員に職員出前講座を周知し、講座数を増やすなど、内容を充実させる。
- ・ 引き続き広報やホームページに掲載し、広く周知するとともに、小・中学校でも活用が図られるよう校長会等を通じてPRに努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		
予算額	175,000円	決算額	124,750円

**1 事業概要**

多様な学習機会を提供するため、児童及び成人を対象とする以下の事業を実施した。  
 (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設  
 (2) 「桶川市平成市民大学」の開設

**2 事業実績**

(1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設（全5回）

官学連携事業として、聖学院大学、日本薬科大学、上尾市教育委員会、伊奈町教育委員会、桶川市教育委員会からなる「子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会」を組織し、違う学校・学年の子どもたちが、大学のキャンパスや企業などで学ぶ「子どものための大学」を実施した。

対象者：上尾市、伊奈町、桶川市在住の小学5～6年生

定 員：60人（桶川市20人） 参加者：50人（桶川市15人）

回	開催日・会場	内 容	講師など
1	6/11【聖学院大学】	入学式 「市場経済ってなんだろう？その1」	大森達也教授 八木規子准教授
2	6/18【聖学院大学】	「市場経済ってなんだろう？その2」	同上
3	7/16 【埼玉自動車大学校】	「自動車整備士になろう！」	埼玉自動車大学校 のみなさん
4	8/23【日本薬科大学】	「植物の色の不思議」	野澤直美教授
5	9/10【日本薬科大学】	「自然の観察・森と顕微鏡」	山下裕講師 齋藤博講師

主な歳出：子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会負担金 50,000円

(2) 「桶川市平成市民大学」の開設（9回）

生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを実感していく場として、事業を実施した。

テーマ：「豊かな教養を身につけよう」

参加者数：71人（前年度82人）

参加延人数：488人（前年度617人）

回	開催日	内 容	講師など
1	8/24	開講式 講義「桶川市の市政全般について」	桶川市長 小野 克典
2	9/8	講義「生活不安と地域の福祉力」 ※台風のため、中止	立正大学 稲葉 一洋 教授

3	9/21	講義「ストップ温暖化」 桶川市の現状と課題	環境教育アシスタント 金成 眞明 氏
4	10/6	講義「街頭芝居から昭和を振り返る」 －高齢者と紙芝居－	立正大学 堺 正一 元教授
5	10/20	講義「オリンピックの歴史」	東洋大学 谷釜 尋徳 准教授
6	11/2	「歴史散策 中山道」	桶川市ガイドボランティア
7	11/17	講義「薬毒同源」～毒と薬と人間～	日本薬科大学 山路 誠 洵教授
8	12/8	実習「アロマハンドソープを作しましょう」	日本薬科大学 糸数 七重 講師
9	12/22	講義「現代社会における教育の在り方」 閉講式	桶川市教育部長 松本 潔 桶川市長 小野 克典

主な歳出：講師等謝礼 115,000 円

### 3 上記2に対する評価

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわ

- ・ 各回事故等なく、安全に事業を進める事ができた。
- ・ 参加児童に対する総合アンケートにおいて、満足度に対して「つまらなかった」と回答をした児童は0人であった。
- ・ 保護者に対するアンケートから、家庭で自発的に学習の振り返りや、講義内容に触れる児童が多いことがわかった。

(2) 桶川市平成市民大学

幅広い分野の講座を実施するとともに、講師に大学教授などを招き、内容の向上に努めたため、受講生の理解を深めることができた。さらに、定員(50人)を大幅に上回る応募者に対応することで、より多くの方に学習機会の提供を行うことができた。

### 4 29年度の目標(値)

参加者の満足度の維持、向上を目指す。

- (参考:① 平成28年度子ども大学参加児童満足度アンケート結果 とても満足…39人、すこし満足…9人、つまらなかった…0人  
② 平成28年度平成市民大学参加者アンケート結果 大変良かった…45.5%、良かった…38.8%、ふつう…15.2%、良くなかった…0.5%)

### 5 29年度以降の取組

「子ども大学あげお・いな・おけがわ」は、桶川市分の定員20名以上の応募があるよう周知等を行う。

「桶川市平成市民大学」は講座内容の充実をさらに図るため、大学等と綿密な打合せを行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	文芸桶川発行		
予算額	498,000円	決算額	474,300円
<b>1 事業概要</b>			
文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川第37号」を発行した。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 発行部数等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発行部数：300部</li> <li>・ 無償配布部数：執筆者、市内公共施設、学校等：191部</li> <li>・ 有償頒布部数：21部（頒布価格：1冊800円 一般部門の応募料：400円）</li> </ul>			
(2) 編集委員会			
各団体から選ばれた計6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。（桶川市文化団体連合会文学会 2人、桶川市図書館実作協議会 1人、桶川市俳句連盟 1人、短歌関係団体 1人、桶川市教育研究会 1人）			
(3) 掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数）			
応募作品全て（一般部門・ジュニア部門）を掲載した。			
○一般部門の掲載作品数(掲載者数)			
小説2編(2名)、随筆7編(7名) 評論1編(1名)、詩5編(5名)、 短歌110首(22名)、俳句155句(31名)、川柳25句(5名)、			
○ジュニア部門の掲載作品数(掲載者数)			
小説4編(4名)、短歌8首(8名)、 俳句10句(10名)			
○その他、挿絵等8点(8名)			
歳出：印刷製本費437,400円、編集委員謝礼54,000円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
ジュニア部門の掲載作品数が前年度とほぼ横ばいとなっているため、全体の数も伸びていない。中学生の頃から作品を創作し、応募してもらうことで、全体の応募作品数も伸びていくと考えられる。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
応募作品数350点以上			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品募集について、市広報や公共施設に応募用紙を設置し周知を行う。前年度執筆者に応募の案内をする。</li> <li>・ ジュニア部門については、学校を通じて中学生から作品を募集する。</li> <li>・ 冊子のデザイン等は、作品展等に出向き、良いデザインを探し出す。</li> </ul>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習とサポート事業		
予算額	1,829,000円	決算額	1,688,940円
<b>1 事業概要</b>			
パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川ITネットとの協働事業として、市民を対象とするパソコン講座を行った。また、パソコンサポートセンターを開設し、市民からの疑問や相談に応じた。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) パソコン講習の実施状況は、下表のとおりである。			
講座名		受講者数（定員）	
初心者講座	（2コース）	20人（各回20人、計40人）	
ワード講座	（2コース）	26人（各回20人、計40人）	
エクセル講座	（3コース）	41人（各回20人、計60人）	
年賀状作成講座	（3コース）	32人（各回20人、計60人）	
合計		119人	
(2) パソコンサポートセンターについては、パソコンの活用に関する疑問や相談に応じるため、毎週金曜日に東公民館3階パソコンルームにおいて開設した。全48回開催し、利用者数は408人であった（前年度48回、483人）。 主な歳出：パソコンリース料1,121,292円、講師等謝礼324,000円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) パソコン講座受講の人数合計が前年度より減少しており、特に「初心者講座」が大きく減少している。（前年度34人）初心者が身近な所で学べる意義はあるが、開催方法等は検討する必要がある。			
(2) パソコンサポートセンターも同様に身近な所で相談できる利便性があり、今後はどのような需要があるかを把握し、パソコン講座につなげていけるよう検討の必要がある。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
パソコン講習受講者の割合 定員の70%以上 パソコンサポートセンター利用者数 500人			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
(1) パソコン講習について			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講者が減少している点について、需要の変化に応じた事業展開を目指す。</li> <li>・ 講習内容の工夫・改善及びその他講座内容を検討し、受講者数の増加を目指す。</li> <li>・ チラシを桶川東公民館等へ設置したり、他の講座で配布したりするなど、さらに周知を行う。</li> </ul>			
(2) サポートセンターについては、引続き、様々な機会をとらえPRに努める。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	3,595,000円	決算額	3,393,083円
<b>1 事業概要</b>			
<p>生涯学習推進体制の整備のため、次の（1）から（3）までの会議を開催し、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見を聴取した。また、（4）社会教育指導員を配置することで社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。</p> <p>（1）桶川市生涯学習推進会議の開催  （2）社会教育委員会議の開催  （3）社会教育関係委員合同研修会の開催  （4）社会教育指導員の設置</p>			
<b>2 事業実績</b>			
<p>（1）桶川市生涯学習推進会議の開催  第1回 平成28年6月22日（水）  内 容：平成28年度の主な生涯学習推進事業について（計画）</p> <p>（2）社会教育委員会議の開催  第1回 平成28年5月26日（火）  内 容：①平成27・28年度生涯学習文化財課事業について  ②平成27・28年度社会教育委員の活動について  ③平成28年度社会教育関係補助金・交付金について  ④「桶川市社会教育委員の会議の公開に関する取扱要綱」について  第2回 平成28年8月30日（金）  内 容：①社会教育施設の視察  （桶川公民館→駅西口図書館→生涯学習センター）  第3回 平成28年11月8日（火）  内 容：①社会教育施設の視察  （北本市 文化センター→こども図書館→児童館）  第4回 平成29年2月13日（月）  内 容：①活動テーマについて  ②桶川市青少年問題協議会委員の選出について  ③桶川市社会福祉協議会評議員の選出について</p> <p>（3）社会教育関係委員合同研修会の開催  開催日：平成29年2月13日（月）  内 容：「埼玉県生涯学習指針」について  埼玉県生涯学習文化財課職員による講義  対 象：社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員</p>			

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2人に委嘱した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、平成市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

歳出：報酬及び報償費 3,376,200 円

**3 上記2に対する評価**

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

生涯学習について総合的に審議し、生涯学習の推進に寄与した。

(2) 社会教育委員会議の開催

委員の要望により市内・外の社会教育施設の視察を行い施設活用の現状について意識を深めることができた。また、「世代を通じた協働事業の在り方」に続く、新たな「活動テーマ」について協議したが結論は次年度に送られることとなった。

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

上記2つの委員と公民館運営審議会委員が共通のテーマを基に研修に参加し、生涯学習推進の方向性について情報を得ることができた。

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育についての高い専門性にに基づき、PTA活動の支援や平成市民大学等、各種講座を開催した。

**4 29年度の目標(値)**

各会議、研修会の計画的な実施

**5 29年度以降の取組**

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

生涯学習の推進について審議していく。

(2) 社会教育委員会議の開催

「社会教育の普及・振興」について審議していく。

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

3委員会合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。

(4) 社会教育指導員の設置

引き続き社会教育について企画・立案をし、普及・振興を図っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	88,000円	決算額	46,593円
<b>1 事業概要</b>	<p>学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾一人財バンク」に登録し、活用を図った。</p>		
<b>2 事業実績</b>	<p>(1) 登録状況：登録者数 57 人（前年度 53 人）、登録団体数 12 団体（同 11 団体）  ※ 芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野に亘る。</p> <p>(2) 利用状況は、自然科学【小学校】、骨盤エクササイズ【一般】、スポーツ吹矢【小学校】の計 3 件である（前年度 6 件）。</p> <p>(3) 周知活動として、広報やホームページへ掲載するとともに、夏休み期間である 7 月 31 日に、「人財バンク実演展示会」を桶川市民ホール（ギャラリー、ホール）において実施した。参加団体は 6 団体と 10 名、来場者数は約 100 人。</p>		
<b>3 上記 2 に対する評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録団体は増えているものの、利用は低い状況であり、まだまだ周知が必要である。</li> <li>PR の場である実演展示会は一昨年の参加者からの希望もあり、夏休み期間に実施したが、広くは周知できていないため、検討の必要がある。</li> </ul>		
<b>4 29年度の目標(値)</b>	利用件数 5 件以上		
<b>5 29年度以降の取組</b>	<p>人財バンク利用件数を増加させるため、周知の徹底を図っていく。</p> <p>特に人財バンク実演展示会については、開催時期の調整や他の事業との同時開催を検討する。29年度は、「桶川ベニバナウォーク」にて開催し、来場者数の増加を狙う。人財バンクが多くの人財バンクの来場者に周知できる機会をつくる。</p> <p>また、一般市民だけでなく、登録者・登録団体が実演展示会に参加し、登録者同士の交流が行えるように、呼びかけを行っていく。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	人権教育の推進		
予算額	4,300,000円	決算額	4,056,660円

**1 事業概要**

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

**2 事業実績**

(1) 桶川市人権教育推進協議会

① 協議会

第1回 開催日：平成28年6月2日（木）

内 容：平成27年度事業報告及び28年度事業計画 等

第2回 開催日：平成29年2月8日（水）

内 容：平成28年度事業報告及び29年度事業計画案 等

② 研修会

・ 人権教育・啓発講演会

開催日：平成29年1月31日（火） 桶川東公民館

内容：女性の社会進出に関わる講演会『「居場所」のない男、「時間」がない女』

講師：水無田気流 氏（社会学者・詩人・國學院大學教授）

参加者数：101人（前年度89人）

・ 企業等対象人権問題研修会

開催日：平成28年7月21日（木） 桶川東公民館

内容：「女性の雇用」

講師：有限会社フェードイン 代表取締役 工藤敬子氏

参加者数：21人（前年度33人）

(2) 桶川市立集会所事業

① 成人学級講座（カッコ内は前年度）

回	内容および講師	桶川集会所	加納集会所	参加者
1	インターネットによる人権侵害（DVD視聴）	5/13(金)		87人
2	高齢者の人権（講演）	7/8(金)	7/7(木)	60人
3	犯罪被害者の人権（講演）	8/26(金)	8/25(木)	97人
4	様々な人権（講演）	10/21(金)	10/20(木)	57人
5	障害者の人権（DVD視聴）	11/11(金)		94人
6	同和問題（DVD視聴）	2/10(金)		92人
合 計		487人（461）		

② 文化講座を次表のとおり実施した。（カッコ内は前年度）

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数
加 納	書道教室	16 人	394 人(468)
	編み物教室	22 人	471 人(553)
桶 川	書道教室	22 人	487 人(410)
	デコパージュ教室	13 人	260 人(252)

③ 夏休み子ども教室については、人権アニメの視聴、折り紙教室、習字教室を実施し、延べ参加人数は 86 人（前年度 54 人）であった。

④ 集会所文化講座作品展

日時・会場：平成 28 年 12 月 3 日(土) 桶川集会所

展示作品：書道、編物、デコパージュ作品 86 点（84 点）

来場者数：89 人（前年度 84 人）

○集会所事業主要経費

項 目	経 費
文化講座講師謝礼	614,400 円
集会所光熱水費	550,273 円
集会所管理委託	1,474,099 円
集会所清掃委託	489,996 円
合 計	3,128,768 円

3 上記 2 に対する評価

- (1) 企業等対象人権問題研修会については参加企業が少ないため、引続き事前に企業訪問を行い、説明・啓発を図る必要がある。
- (2) 成人学級については、ある程度の出席率を保持しており、研修内容の充実を図っていく必要がある。
- (3) 文化講座及び夏休み子ども教室については、定員に達していないため、引続き周知し、参加者を増やす必要がある。

4 29 年度の目標(値)

- ① 研修会 人権教育・啓発講演会 100 人、企業等対象人権問題研修会 50 人
- ② 成人学級 延べ参加者 500 人 ③ 文化講座 延べ平均参加者 500 人
- ④ 夏休み子ども教室 延べ参加者 100 人

5 29 年度以降の取組

- ・ 桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる人々の意識を高めていく。
- ・ 企業等人権問題研修会については、今日的な課題について意欲的に実践が図れる講師選定、企業への声掛け強化、実施時期の再検討を行い、参加企業の増加を目指す。また集会所文化講座は、参加者の意見を考慮しながら講座内容の見直しを図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	1,563,000円	決算額	1,381,278円

**1 事業概要**

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者に対して当該文化財の管理又は維持に要する経費に対して「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

**2 事業実績**

(1) 文化財の指定区分に従い、以下のとおり交付金を交付した。

国指定文化財	10,000円×1件	=	10,000円
県指定文化財	7,500円×5件	=	37,500円
市指定文化財	5,000円×23件	=	115,000円
合計			162,500円

区分	件数	種別	種類	名称
国指定文化財	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）
県指定文化財	1	有形	建造物	桶川宿本陣遺構
	2	記念物	史跡	熊野神社古墳
	3	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）
	4	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ
	5	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）
市指定文化財	1	有形	建造物	諏訪神社本殿
	2	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二軀
	3	有形	建造物	矢部家住宅
	4	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠
	5	有形	歴史資料	天満神社の木製の額（氷川天満神社）
	6	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書
	7	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書
	8	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書
	9	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書
	10	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基
	11	民俗	有形民俗	稲荷神社の力石
	12	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆
	13	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ
	14	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ
	15	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ
	16	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式
	17	記念物	史跡	木戸跡（下）
	18	記念物	史跡	木戸跡（上）

	19	記念物	史跡	加納城址
	20	記念物	天然記念物	シイガシ
	21	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ
	22	記念物	天然記念物	ムクロジ
	23	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜

(2) 補助金交付要綱に従い、以下のとおり補助金を交付した。

[交付対象文化財]

区 分	件数	種別	種類	名 称
市指定文化財	4	記念物	天然記念物	シイガシ

ア 周囲剪定

総事業費 36,000 円、補助率 1/2、補助金額 18,000 円

イ 害虫防除

総事業費 14,040 円、補助率 1/2、補助金額 7,020 円

ウ 花芽除去

総事業費 59,400 円、補助率 1/2、補助金額 29,700 円

エ 防犯灯設置

総事業費 203,000 円、補助率 1/2、補助金額 101,500 円

区 分	件数	種別	種類	名 称
登録文化財	2	有形	建造物	島村家住宅土蔵

ア 屋根補修工事

総事業費 1,207,116 円、補助率 1/2、補助金額 603,558 円

イ 外壁修繕工事

総事業費 918,000 円、補助率 1/2、補助金額 459,000 円

(なお、27 年度は 6 件 1,654,437 円、26 年度は 1 件 165,350 円)

### 3 上記 2 に対する評価

(1) 交付金交付事業を通して文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者の協力を得て、指定文化財を適切に管理することができた。また、交付金についても、全 29 件の指定文化財に対して交付することができた。市指定文化財「原山古墳群」については、桶川市文化財保護条例に基づき、教育委員会が平成 28 年度から管理団体となる協定を所有者 2 人と締結した。それに伴い「原山古墳群」が桶川市指定文化財保存管理交付金の対象外となった。

(2) 補助金交付事業により貴重な文化財の補修を行うことで、今後の文化財の保存と継承について寄与することができた。

### 4 29 年度の目標(値)

「指定文化財保存管理交付金」の交付対象である全 29 件に交付を行う。

また、「指定文化財保存事業費補助金」については、所有者からの申請だけではなく、職員が定期的に文化財の現状確認を行うことなどで、所有者との連携を深め、文化財の健全な保存につなげていく。

### 5 29 年度以降の取組

(1) 交付金交付事業については、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。また、新たに文化財が指定されるごとに対応していく。

(2) 補助金交付事業については、所有者と協力しながら、必要に応じて対応していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	570,000円	決算額	570,000円

**1 事業概要**

伝統的な民俗芸能の保存に努める伝承団体に対して、その保存伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

**2 事業実績**

交付金額 30,000円×19団体＝570,000円

〔交付対象民俗芸能及び伝承団体〕

No	芸能の名称	団体の名称
1	岡村の囃子	岡村囃子連
2	岡村の万作	岡村万作保存会
3	加納の餅つき踊り	加納餅つき踊り保存会
4	上日出谷の囃子	上日出谷青年会
5	倉田の囃子	桶川市倉田祭囃子保存会
6	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会
7	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会
8	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連
9	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会
10	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会
11	諏訪の万作	諏訪万作保存会
12	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会
13	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会
14	松原の真言	松原真言保存会
15	松原の万作	松原万作保存会
16	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会
17	三田原の万作	三田原万作連
18	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会

**3 上記2に対する評価**

交付金を通して、民俗芸能団体の活動に対する支援や後継者育成等に寄与することができた。また、各地域の祭礼等を参加することで、各民俗芸能団体（三田原のささら獅子舞、前領家のささら獅子舞、松原のささら獅子舞、松原の真言、岡村の囃子、下日出谷の囃子、倉田の囃子、川田谷・下日出谷の万作、小針領家のささら獅子舞）の活動記録を取ると同時に、実際に活動されている方の意見なども聞くことができた。

**4 29年度の目標(値)**

地域の祭礼等に積極的に参加することで、民俗芸能団体の活動記録を取り、また各団体の抱える問題点などを伺う機会とする。さらに、民俗芸能団体が活動できる場を提供するなど、活動の幅を広げる支援を行っていく。

**5 29年度以降の取組**

民俗芸能に関する情報を収集していき、交付金の交付を始め、広く支援活動を行う。また、活動の継続が難しくなっている団体や活動を再開した団体があれば、随時対応をしていきたい。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	後谷遺跡出土品保存処理事業		
予算額	4,000,000円	決算額	3,996,000円
<b>1 事業概要</b>			
国指定重要文化財の後谷遺跡出土品について、適切な保存管理・活用を行い、将来へ引き継いでいくことを目的に必要な保存修理を実施した。			
<b>2 事業実績</b>			
<p>(1) 保存修理は、漆製品、木製品、土製品等の出土品のうち、脆弱な物や修復が必要な物に対して行う。平成28年度に関しては、土器・土製品189点（耳飾り186点、土器3点）をその対象とした。また、業務委託先に訪問して、文化庁職員の立会いのもと、着実に作業が行われているかの確認を行った。</p> <p>(2) 良好な保存状態を確保するため、保存処理した189点を保存する専用の保存箱を作製した。</p>			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
<p>(1) 土器・土製品189点について、保存修理及び保存箱・保存台の作製を実施することができた。保存修理を行うことで劣化の進行や損傷を防ぎ、重要文化財の適切な保存管理と継承ができるようになった。</p> <p>(2) 保存修理により、良好な状態での公開や活用の機会を増やすことにつながり、歴史民俗資料館の常設展示にて公開を行った。さらに平成29年3月から5月にかけて埼玉県立歴史と民俗お博物館で開催された特別展「縄文の空間—暮らしと願い—」においても一部出展された。</p>			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
例年通り、文化庁と協力して保存修理を滞りなく行う。また、修理が済んだ出土品については、可能な限り歴史民俗資料館の展示、市外の博物館などに貸し出すことにより、その活用及び周知を図る。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
<p>(1) 平成24年度から5ヵ年計画で保存修理を予定していたが、再度、文化庁と見直しを図り、7ヵ年計画で280点の出土品に保存修理を施すものとした。これまでに漆製品13点、土偶1点、木器・木製品52点、土器・土製品（耳飾り）189点の計255点が終了している。</p> <p>平成29年度については土器・土製品（深鉢型土器・鉢型土器）8点の保存修理および保存台の作製を実施する。</p> <p>(2) 保存修理の終了したものについては、歴史民俗資料館に収蔵し、特別展示等の一般公開の機会を創出する。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業		
予 算 額	108,000 円	決 算 額	90,000 円
<b>1 事業概要</b>	新たな文化財指定の可否等を行なうため、指定文化財候補の調査を実施した。		
<b>2 事業実績</b>	(1) 寿1丁目の「伊藤医院」について、文化財保護審議会委員とともに、現地を訪問して建造物調査を実施した。		
<b>3 上記2に対する評価</b>	(1) 調査を実施することにより、文化財に関する貴重な情報を得ることができた。		
<b>4 29年度の目標(値)</b>	文化保護審議会委員の協力を得ながら、将来の指定文化財候補の調査及び指定への検討を行う。また、新たに指定候補になり得る文化財の発見及び情報収集に努める。		
<b>5 29年度以降の取組</b>	(1) 市内所在又は市で所有する未指定の文化財について、随時調査を実施していく。 また、歴史民俗資料館に一部保管されている地租改正地引絵図など、すでに調査を実施した文化財を含めて、その指定を検討する。		

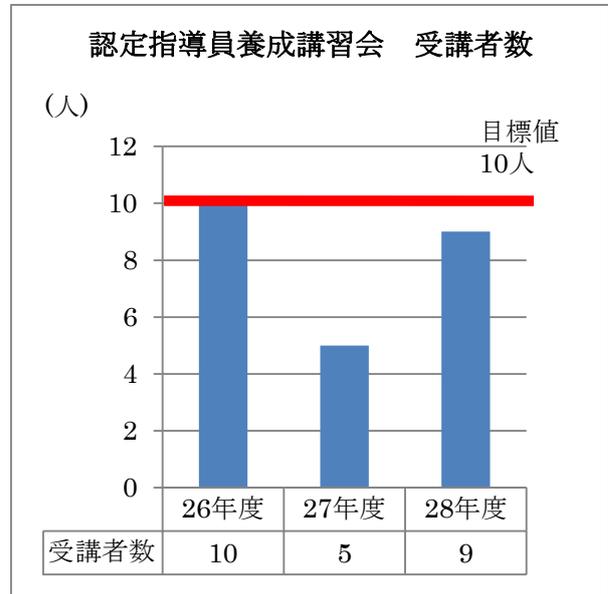
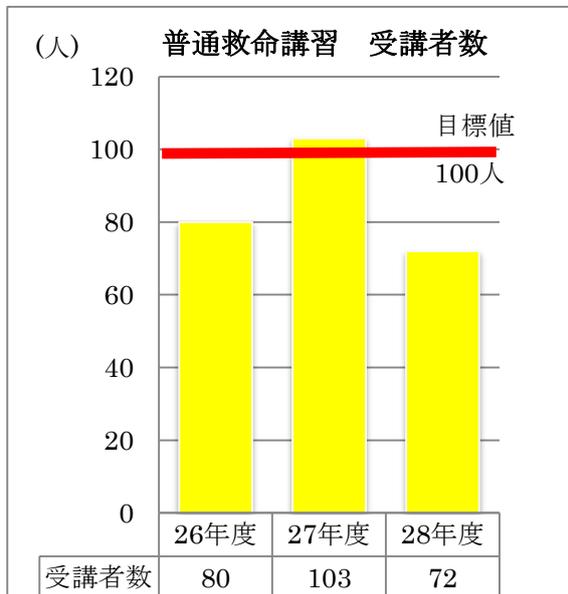
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	スポーツ指導者育成事業		
予算額	3,094,000円	決算額	2,616,360円

**1 事業概要**

市民の健康増進に寄与する、スポーツ指導者の育成支援を行った。

**2 事業実績**

- (1) スポーツ推進委員やスポーツ少年団、体育協会に情報提供を行い、その活動を支援した。＜報酬：2,223,000円、費用弁償：393,360円＞
- (2) スポーツ推進委員及び体育協会加盟団体、スポーツ少年団の指導者、学校施設開放利用団体を対象に「普通救命講習」を実施した。（受講者：72人）



**3 上記2に対する評価**

- (1) 各種研修会に多くのスポーツ指導者が積極的に参加した。特にスポーツ少年団は認定指導員養成講習会へ積極的に参加し、新たに8人が指導者となった。
- (2) 各団体において「普通救命講習」を実施し、AEDの取り扱いや応急手当について知識を深めたことにより、指導者の資質の向上が図れた。

**4 29年度の目標値**

認定指導員養成講習会受講者数 10名 普通救命講習受講者数 100名

**5 29年度以降の取組**

- (1) スポーツ指導者の育成や支援を継続していく。
- (2) 普通救命講習をスポーツ推進委員、体育協会加盟団体及びスポーツ少年団、学校体育施設開放利用団体に継続的に実施する。  
また、過去に受講された方にも再度受講を促し、資質の向上を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	5,040,000円	決算額	5,039,863円

1 事業概要

生涯スポーツの普及及び更なる推進を図るため、各種団体に対し支援を行った。

2 事業実績

(1) スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

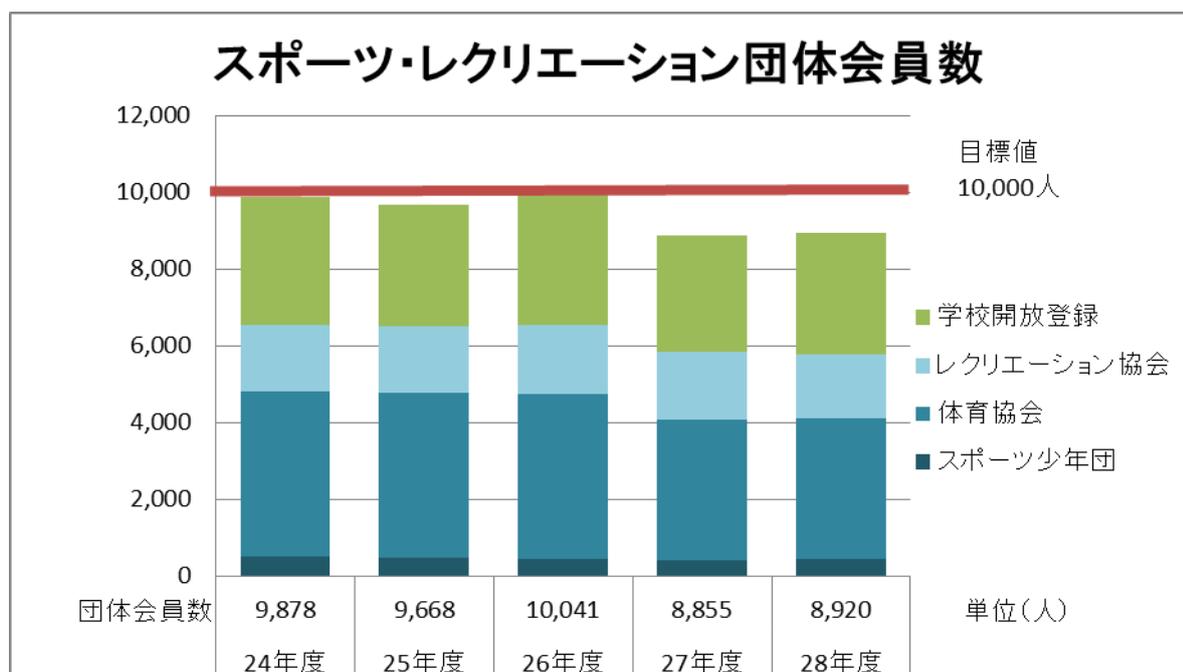
件名	金額
桶川市体育協会補助金	1,600,000円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000円

(2) スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施した。

件名	金額
地区別体育祭運営交付金	2,399,863円
スポーツフェスティバル交付金	400,000円
おけがわ駅伝競走大会交付金	400,000円

(3) スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
会員数	10,041人	8,855人	8,920人



### 3 上記2に対する評価

各スポーツ・レクリエーション関係団体に補助金を交付することなどにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与することができた。

- (1) 桶川市体育協会、桶川市スポーツ少年団及び桶川市レクリエーション協会などの団体の協力により、子供から大人までの幅広い世代の生涯スポーツの普及・推進を図ることができた。また、スポーツ推進委員は自事業のほかにも様々な行事、事業で活動を行い、桶川市のスポーツ・レクリエーションの振興に貢献した。
- (2) 9年目を迎えた地区別体育祭は、各地区に対して助成した結果、各地区実行委員会を中心となって地域の特色を生かした体育祭が開催された。
- (3) 各種イベントを実施することにより、スポーツ・レクリエーションの普及、推進に資するとともに、スポーツ少年団などの関係団体の活動を支援した。
- (4) スポーツ・レクリエーション団体会員数は今年度微増となったが目標値の10,000人へ届かなかった。

### 4 29年度の目標値

スポーツ・レクリエーション団体会員数 10,000人

### 5 29年度以降の取組

- (1) 各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、多世代間の交流を行い、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。
- (2) 学校開放備品の充実、メンテナンスを行い、スポーツ・レクリエーション団体が活動しやすい環境を作り、会員数の増加を目指す。
- (3) 日体大との相互連携協定に基づき、スポーツ教室や研修会への教職員の派遣などにより、生涯スポーツの普及・促進に繋げる。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる											
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）											
基本事業	施設の充実（2045）											
事業名	スポーツ施設維持管理事業											
予算額	67,549,000円	決算額	67,525,602円									
<b>1 事業概要</b>												
スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。												
<b>2 事業実績</b>												
(1) 体育施設の管理<施設管理委託 64,614,000円ほか> サン・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託した。また、体育施設の維持改善に努めた。												
(2) 学校体育施設開放事業<AED借上料：264,600円、夜間照明維持管理 395,448円ほか> すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として、施設が開放されており市民のスポーツ活動の拠点として利用されている。 例年に引き続き、施設の維持管理に努めており、施設の利用状況も次のとおりであった。 <登録状況>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>団体数</th> <th>利用人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小中学校施設利用団体</td> <td>134 団体</td> <td>2,859 人</td> </tr> <tr> <td>夜間照明施設利用団体</td> <td>6 団体</td> <td>237 人</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	団体数	利用人数	小中学校施設利用団体	134 団体	2,859 人	夜間照明施設利用団体	6 団体	237 人
区 分	団体数	利用人数										
小中学校施設利用団体	134 団体	2,859 人										
夜間照明施設利用団体	6 団体	237 人										
(3) 桶川市総合グラウンド構想<総合グラウンド構想策定委託 5,832,000円> 公募型プロポーザル方式による業務委託を実施した。 基礎的情報の整理や関係団体アンケート結果などから、スポーツニーズなどの将来需要及び課題の整理を行い、これを踏まえた総合グラウンド整備の目標や方針を設定し、実現に向けた展開構想の整理を行った。												
<b>3 上記2に対する評価</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の施設については、指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社による備品の更新や必要に応じた補修及び点検等により、良好な維持管理をすることができた。</li> <li>総合グラウンド構想については、具体的な候補地や財政措置が決まっていないという困難な状況下で、委託業者の見地を活かしてまとめることができた。</li> </ul>												
<b>4 29年度の目標</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>各運動施設の利用環境を良好な状態に維持する。</li> <li>総合グラウンドについては、策定した構想を基に関係法令・補助金などについて調査研究する。</li> <li>総合運動場の環境改善について検討する。</li> </ul>												
<b>5 29年度以降の取組</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 既存の施設について、備品の更新、施設の補修、点検等を行う。</li> <li>(2) 総合グラウンドについては、策定した構想を基に調査・研究を継続する。</li> <li>(3) 総合運動場の環境を改善する。</li> </ul>												

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本目標	家庭の教育力の向上（2011）		
事 業 名	幼児・家庭教育セミナー事業		
予 算 額	198,800 円	決 算 額	187,520 円

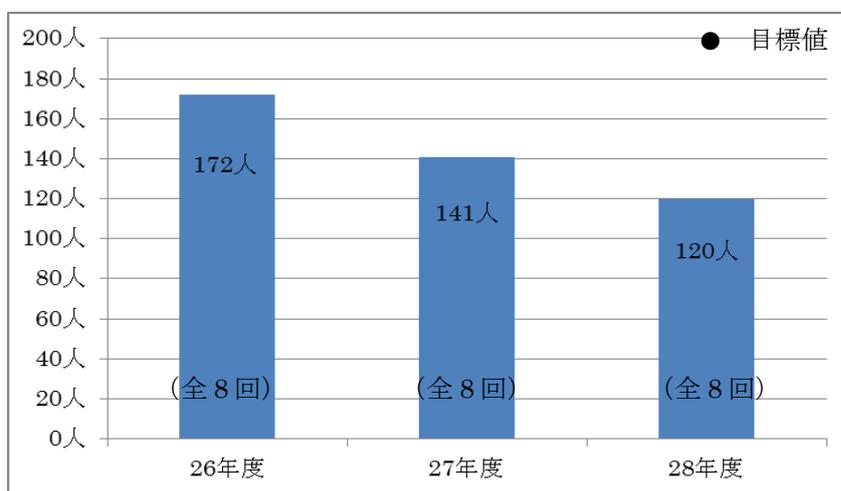
### 1 事業概要

幼児・小学生をもつ親を対象に「幼児教育」「家庭教育」について学び、活かすことができる講座を前・後期各4回（計8回）開催した。

### 2 事業実績

#### 主な講座

- ・子供を育てる、ということは親自身が「人」として育てられること
- ・ストレッチとヨガでリフレッシュ
- ・子供の遊びと体力 ほか



#### 参加者の感想

「“共育”という言葉が心に残りました」「遊びが知力につながっていくことなど、とても大切なものだとわかりました」などの講座内容に関するもののほか、保育士の導入に関しても「子供を安心して預けられ、自分の時間が持てることがとてもありがたかった」といった好意的な意見をいただいた。

### 3 上記2に対する評価

終了後アンケートの結果では満足度はかなり高いものの、平成25年度の214人をピークに参加者は減っており、平成28年度も「第5次総合振興計画—後期基本計画」で掲げた目標値の200人を達成することは叶わなかった。

### 4 29年度の目標(値)

目標値の達成をめざし、段階的に180人とする。

### 5 29年度以降の取組

子育て世代のニーズに応えられるようなセミナーのあり方について調査・研究するとともに、PR方法や開講時間帯の設定等の工夫も行い、参加者の増加とセミナーの実施目的である「健全な家庭を築くとともに、健やかな子育てができる親の育成」を図る。

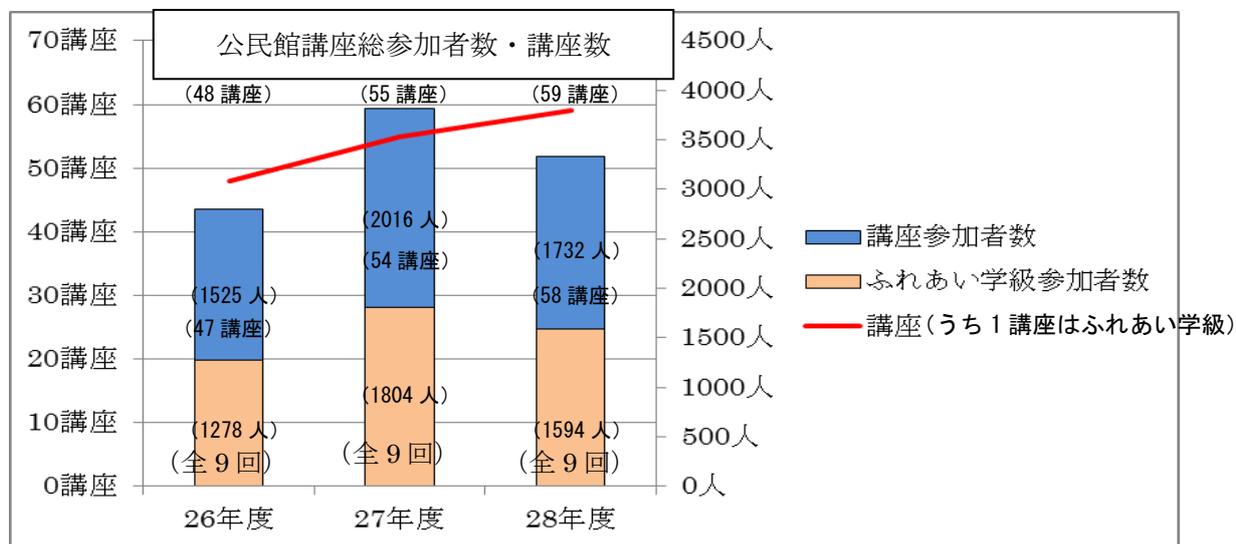
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本目標	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,349,200円	決算額	1,276,965円

**1 事業概要**

市民の多様な学習ニーズを捉え、学習意欲のある市民に対して時代に即した、より質の高い講座を提供する。

**2 事業実績**

世代間交流、高齢者、子育て支援などに配慮した講座を4館合計で59講座（58講座＋ふれあい学級）を開催した。



**3 上記2に対する評価**

「第5次総合振興計画—後期基本計画」で掲げた目標値55講座を達成することができた。参加者数を見ると前年度より減少しているが、複数回に渡る講座が少なかったことと、合わせて3月中旬より加納公民館がエレベーター改修工事に入ったことで未実施となった講座が生じたことによる影響と考えられる。

**4 29年度の目標(値)**

引き続き行われる加納公民館のエレベーター設置工事に加え、29年6月からは桶川公民館の大規模改修工事を実施するが、「第5次総合振興計画—後期基本計画」で掲げた目標値の55講座実施を目指す。

**5 29年度以降の取組**

市民ニーズを的確に捉え、引き続き時代に即したテーマを取り入れた魅力ある講座を企画していく。また、体験的講座を引き続き実施するとともに、平成24年6月に社会教育委員より出された提言「公民館のあり方について」を踏まえ市民との協働の公民館づくりを推し進めていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本目標	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	公民館業務運営事業		
予算額	12,059,000円	決算額	10,149,869円

**1 事業概要**

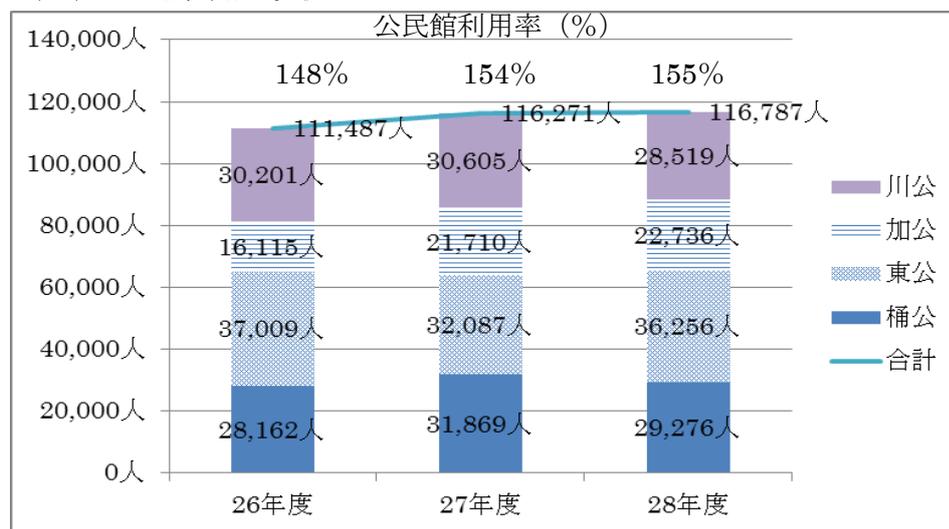
市民に学習の場を提供するために、必要な公民館施設の管理運営を行う。

**2 事業実績**

**(1) 非常勤公民館長の任命と公民館運営審議会委員の委嘱**

公民館業務の企画立案の指導・助言、施設の管理等を行うため、非常勤公民館長を任命した。また、有識者や利用者などの意見聴取の場となる公民館運営審議会委員を委嘱し定期的に会議を開催、市民と公民館のパイプ役として、様々な視点から意見をいただいた。特に今年度は、「公民館利用の手引き（案）」の検討を行った。

**(2) 公民館利用状況**



**3 上記2に対する評価**

(1) 有識者等の多様な意見によって講座企画に当たり指針となった。また、「公民館利用の手引き（案）」作成時にも参考とすることができた。

(2) 公民館利用率（年間公民館利用者数/市人口）は26年度148%から27年度154%、28年度155%と上昇が認められる。

**4 29年度の目標(値)**

(1) 「公民館利用の手引き」の完成

(2) 全4館のうち、2館が一時休館となるが、公民館利用率の維持に努める。

**5 29年度以降の取組**

加納公民館では平成29年3月末からエレベーターの設置工事を開始し、9月末日までにすべての工事を完了する。また、桶川公民館では6月より30年3月末までの間、休館となり大規模改修工事が実施される。施設の機能向上、使用者の利便性向上を公民館のさらなる活用へと繋げ、社会教育、生涯学習の充実、発展を図っていく。

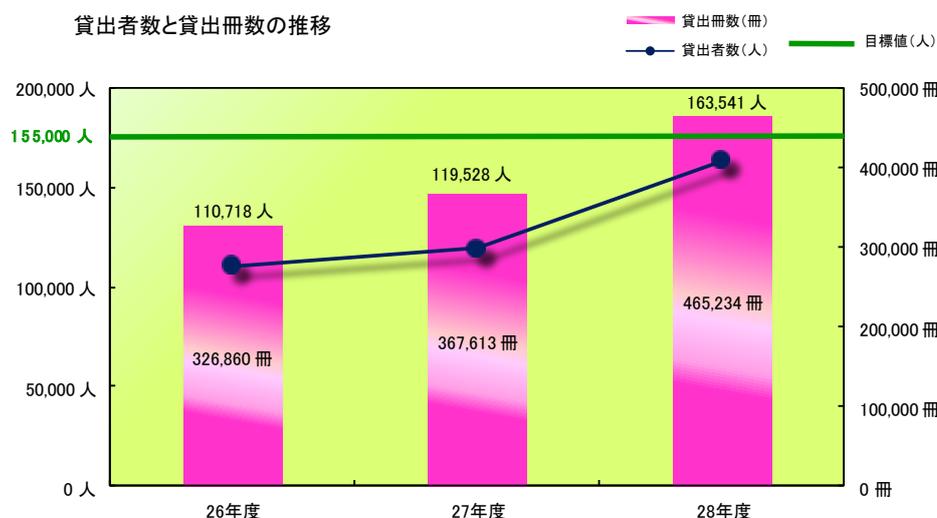
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	管理運営経費		
予算額	141,886,000円	決算額	139,764,695円

1 事業概要

図書館サービスの充実を図るため、図書館の維持管理業務を行った。

2 事業実績

(1) 貸出者数、貸出冊数の推移



(2) OKEGAWA honプラス+イベントスペースにおいて、イベントを62回開催（延べ115回）延べ参加人数 5,197人

3 上記2に対する評価

(1) 及び(2) 前年度より貸出者数が約37%、貸出冊数が約27%増加し、利用者に対し満足度の高いサービスを提供した。また、駅西口図書館のイベントスペースを利用した官民連携の文化交流事業を実施し、生涯学習の場、多世代交流の場を提供した。

4 29年度の目標(値)

図書館利用者数 155,000人

(市立図書館：3,000人、駅西口図書館：147,000人、川田谷分室：5,000人)

※市立図書館については、4月～5月の2ヶ月間（6月から来年3月まで休館のため）

5 29年度以降の取組

(1) 市立図書館の大規模改修を行い、リニューアルオープンの準備と高齢者・乳幼児の親子などに利用しやすい滞在型の図書館を目指す。あわせて、坂田地区公共施設等整備事業により建設される複合施設内の図書室の基本設計に携わり、平成31年春オープンを目指す。

(2) 平成31年春からの市立図書館・川田谷分室・坂田地区図書室の指定管理者導入に伴う条例の改正及び図書館全体での指定管理募集要項の作成を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業		
予算額	39,081,000 円	決算額	38,017,514 円

**1 事業概要**

図書資料を購入し、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。

**2 事業実績**

(1) 図書資料の購入

摘 要	購入冊数	(前年比較)	購入金額	(前年比較)
図書資料	6,848 冊	減 18,391 冊	11,322,910 円	減 38,841,535 円

その他資料（地図・法令集・官報等）購入金額 296,892 円

- (2) セカンドブック事業の実施 実施人数 603 人 金額 894,787 円
- (3) 音訳者養成講座（初級のステップアップ）の開催 参加者 12 人
- (4) おはなし会：実施回数 120 回 参加者 児童 823 人 大人 502 人  
対面朗読：実施回数 65 回 参加者 68 人
- (5) ボランティアとの協働事業  
「子供への読み聞かせの指導・読み聞かせの実践」  
参加児童 読み手 10 人 聞き手 24 人 ボランティア 8 人

**3 上記2に対する評価**

- (1) 6,848 冊の資料を購入し、蔵書を更新した。また、除籍した資料 12,743 冊のうち 7,885 冊をリサイクル本として利用者に提供した。
- (2) 小学1年生を対象に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援した。
- (3) 初級のステップアップ講座を開催し、初級のレベルアップにつながった。
- (4) 及び(5) ボランティア団体の協力や支援により事業を実施し、こどもへの読み聞かせや視覚に障がいのある方への対面朗読が実施できた。

**4 29年度目標(値)**

図書館利用者数 155,000 人

(市立図書館：3,000 人、駅西口図書館：147,000 人、川田谷分室：5,000 人)

※市立図書館については、4月～5月の2ヶ月間（6月から来年3月まで休館のため）

**5 29年度以降の取組**

- (1) 平成31年春オープン予定の坂田地区図書室に所蔵する図書の選書を行う。
- (2) 音訳者養成講座（中級）を実施し、対面朗読、録音資料の録音ボランティアの充実を図る。
- (3) 学校と連携して小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。
- (4) 図書館システム変更により、新たに「読書アルバム」を小学生以下対象に、希望者に対して図書館にて配布する。（小学1年生は学校に依頼し、全員配布する。）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	生涯学習センター管理事業		
予算額	31,015,000円	決算額	30,811,627円
<b>1 事業概要</b>			
生涯学習実践の拠点施設として、生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館及び川田谷公民館、図書館川田谷分室が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 生涯学習センター共通			
利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わる事業として、主に以下の事業を実施した。			
ア	設備保守委託		16,493,544円
イ	建築設備定期調査報告等業務委託		158,760円
ウ	施設修繕料		
	消防用設備修繕		294,840円
	給水管（注水管）漏水修繕		109,533円
	屋上通路天井ガラス修繕工事		609,174円
エ	エントランスホール空調設備改修工事		4,104,000円
(2) 歴史民俗資料館			
スタジオ、資料整理室系統空調機圧力センサー交換修繕を実施した。 93,420円			
(3) 川田谷公民館			
	研修室等ブラインド交換修繕		65,772円
(4) 図書館川田谷分室 図書館屋上防水改修工事 4,687,200円			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
(1) によって、安全管理にかかわる施設の整備を行うことができた。			
(2) によって、歴史民俗資料館バックヤードの空調環境を正常化することができた。			
(3) 及び(4) については、それぞれの施設について利用環境の改善を図ることができた。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
施設の現状や課題、今後予定されている「道の駅おけがわ」などの大規模プロジェクトとの整合性を図りながらも、緊急性、または危険性の高い施設整備については優先的に実施する。			
<b>5 29年度以降の取組</b>			
(1) 川田谷生涯学習センターを構成する各施設の機能を維持するために、設備と備品の整備を計画的に進める。			
(2) 施設の点検を実施し、現状の課題改善に取り組む。			
(3) 川田谷生涯学習センター大規模改修工事の計画を立案するとともに、隣接地に設置予定の「道の駅おけがわ」「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」との機能の連携を図りながら施設の利活用を高める。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	文化財の保存と継承 (2064)		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	4,434,000円	決算額	4,039,312円
<b>1 事業概要</b>			
地域の歴史と文化に関わる資料について、調査収集を行い、これを収蔵した。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 資料収集事業			
以下の資料について、新規に収集を行った。			
ア 有形民俗資料：近現代生活用具 倉田地区の農具 川田谷地区の漁具			
イ 歴史資料：桶川宿関係資料 戦争関係資料 近代教育関係資料			
(2) 資料調査事業			
ア 歴史資料の調査：栗原家文書の整理解読（継続事業）			
イ 無形民俗文化財の調査：祇園祭り子ども囃子 東光寺百万遍 本学院の節分行事 ささら獅子舞（小針領家・松原・前領家・三田原）			
(3) 資料収蔵事業			
ア 保存処理事業終了の後谷遺跡第4次発掘調査出土品の再収蔵			
イ 発掘調査資料の生涯学習文化財課からの移管収蔵			
〔補助員賃金 1,731,875円〕			
(4) 資料管理業務			
ア 収蔵環境調査を委託実施した。			
イ 特別収蔵庫の防塵防黴処理、展示室の簡易燻蒸及び防塵防黴処理を委託実施した。			
ウ 燻蒸殺虫業務を委託実施した。			
エ 収蔵資料の目録情報を電算化する。			
〔委託料 2,250,936円〕			
<b>3 上記2に対する評価</b>			
本事業は、歴史民俗資料館の最も基礎的な業務として実施した。			
(1) は、依頼に基づき新規に資料の収集を実施した。			
(2) は、継続的に実施している事業であり、28年度は行事の準備段階の撮影に臨んだ。			
(3) は、生涯学習文化財課と連携し、文化財の保存業務として実施したものである。			
(4) は、環境調査を実施した結果に基づき、特別収蔵庫及び展示室の防塵防黴処理業務を実施できた。また、収蔵資料のデジタル化、目録作成をさらに進められた。			
<b>4 29年度の目標(値)</b>			
(1) 総合的有害生物等管理（IPM）による収蔵資料管理を徹底する。			
(2) 資料管理システムが構築されたことにより、収蔵資料について公開を一部始める。			
<b>5 29年度以降の取組み</b>			
(1) 地域の資料について資料の収蔵と登録を計画的に実施する。			
(2) 資料の収蔵環境を整え、IPMの手法による資料の健全な保存を目指す。			
(3) 資料管理システムの運用を図り、インターネットを活用した情報発信を進める。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の深耕・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	多様な学習機会の提供 (2041)		
事業名	教育普及事業		
予算額	325,000 円	決算額	323,531 円
<b>1 事業概要</b>			
桶川の歴史と文化を展示及び講座を通して市民に広く伝えた。			
<b>2 事業実績</b>			
(1) 展示事業			
ア 企画展			
テーマ：「野方の農業 摘田と畑作」			
開催期間：12月3日～1月10日 期間中参観者数：331名			
テーマ：「江川が結ぶ縄文のムラー高井・諏訪野・デーノタメー」			
開催期間：3月5日～5月7日 期間中参観者数：1,611名			
イ 資料展示			
桶川の夏祭り（6・7月期） 昭和の戦争と桶川（8月期）			
秋の祭礼とささら獅子舞（9・10月期） 桶川市における近年の発掘調査から（11月期）			
〔消耗品費 124,002 円 印刷製本費 68,256 円〕			
(2) 講座事業			
ア 特別文化財講座			
テーマ：「摘田をめぐる」			
開催日：12月25日 講師：上尾市教育委員会職員 参加者：21名			
テーマ：「縄文の豊かさを知るー杉並縄文人からの伝言ー」			
開催日：3月26日 講師：奥松島縄文村歴史資料館名誉館長 参加者：46名			
イ 企画展資料解説講座			
テーマ：「桶川の農業」			
開催日：12月18日 参加者：10名 講師：当館職員			
テーマ：「発掘者からの報告ー高井・諏訪野・デーノタメー」			
開催日：3月26日 参加者：57名			
講師：大学専任講師、埼玉県埋蔵文化財調査事業団職員、北本市教育委員会職員 桶川市教育委員会職員			
ウ 展示解説講座			
常設展示をもとに、テーマを定めて解説講座を実施した。			
実施回数：6回 参加者累計：154名			
〔報償費 80,000 円〕			
(3) 体験学習事業			
ア 紅花関連事業（べに花まつり関連事業）			
事業内容：べに花まつりでの紅花染め体験の実施			
実施日：6月18日・19日 実施回数：4回 参加者：105名			
(4) 連携交流事業			
ア 学博連携事業			

- ・事業名：小学校3年生社会科「むかしの暮らしを調べる」に関わる見学  
支援内容：体験学習、資料見学、視聴覚教材作成、ボランティアの協力  
参加校：市内小学校6校 市外小学校4校 参加児童数：739名
- ・事業名：小学校3年生総合的学習の時間「桶川を知ろう」に関わる支援  
支援内容：指導者派遣、体験学習 参加児童数：102名

#### イ 公民館との連携事業

- ・事業名：縄文クッキーづくり講座 支援内容：企画支援
- ・事業名：郷土料理研究会 支援内容：体験学習室利用

#### ウ 福祉関係団体との連携事業

事業内容：介護施設利用高齢者に対する見学及び体験学習プログラムの提供  
実施回数：1回 参加者数：10名

#### エ 郷土史並びに社会教育団体に対する見学及び小講座の実施

実施回数：17回 参加者数：527名

#### オ その他市民団体との連携事業

事業内容：体験学習プログラム及び会場提供  
実施回数：7回 参加者数：157名

#### (5) 展示参観者数

展示参観者数の推移は、下表のとおりである。

摘 要	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
入館者数 (人)	8,706	7,913	7,043
開館日数 (日)	294	300	287

### 3 上記2に対する評価

常設展示の参観者は年々減少傾向にある。このことは、平成4年の開館時から展示施設の更新等が行われていないことが原因と考えられる。なお、このような課題解決のために、一般的な参観者を待つという対応から、課題を掲げた講座や展示の実施、さらには、課題をもった参観者の希望に添う連携講座を実施した。

- (1) は、近隣市との連携を図ることで、市外の参観者の増加につながった。
- (2) は、常設展示との関連性をもった講座を企画することによって、展示室を参観する機会を増やし、桶川の歴史について理解を深めてもらうことができた。
- (3) 及び (4) については、市民相互の交流を促進するという事業の趣旨を実現することができた。

### 4 29年度の目標(値)

- (1) 展示業務  
企画展示：年間1～2回 資料展示：4回以上
- (2) 講座事業  
特別文化財講座：1回 企画展関連講座：2回 資料解説講座：4回以上
- (3) 展示参観者数：7,500人の参観者を目指す。

### 5 29年度以降の取組み

- (1) 企画展示や講座の開催にあたっては、地域の課題を積極的に取り上げる。
- (2) 市民団体や青少年団体との連携による事業の展開を図る。
- (3) 観光振興の側面からも様々な情報手段等を積極的に活用し利用者の増加を図る。
- (4) 常設展示更新計画の策定を行う。